

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウコクジン ハマナガクイン 学校法人 濱名学院							
フリガナ大学の名称	カンサイコクテイガク 関西国際大学 (Kansai University of International Studies)							
大学本部の位置	兵庫県三木市志染町青山1-18							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、グローバルな視野に立った研究能力、専門的知識・技術を修得し、国際社会において活躍できる人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	兵庫県北播磨地域における看護専門職者の人材輩出を目的とし、保健医療学部看護学科の収容定員を増加する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	保健医療学部 【School of Health Sciences】 看護学科 【Department of Nursing】	4年	100人 (80)	-	400人 (320)	学士 (看護学) 【Bachelor of Nursing】	平成32年4月 第1年次	兵庫県三木市志染町青山1丁目18番
	人間科学部 【School of Human Sciences】 人間心理学科 【Department of Psychology】	4年	125人	-	500人	学士 (行動科学) 【Bachelor of Arts】	平成19年4月 第1年次	
	経営学部 【School of management】 経営学科 【Department of management】	4年	100人	20人	440人	学士 (経営学) 【Bachelor of Arts】	平成31年4月 第1年次 平成33年4月 第3年次	
	教育学部 【School of Education】 教育福祉学科 【Department of Child Education and Social Welfare】	4年	150人	-	600人	学士 (教育福祉学) 【Bachelor of Arts】	平成19年4月 第1年次	兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号
	国際コミュニケーション学部 【School of International Communication】 英語コミュニケーション学科 【Department of English Communication】	4年	50人	-	200人	学士 (英語学) 【Bachelor of Arts】	平成31年4月 第1年次	
	計		525人 (505)	20人	2140人 (2,060)			

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		看護学研究科看護学専攻課程変更(2) (平成31年3月認可申請)						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	-	- 科目	- 科目	- 科目	- 科目	- 単位		
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手
	新	保健医療学部看護学科	人	人	人	人	人	人
			11 (11)	5 (5)	8 (8)	6 (6)	30 (30)	0 (0)
		人間科学部人間心理学科	12 (12)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)
	設	教育学部教育福祉学科	8 (8)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	24 (24)	0 (0)
		経営学部経営学科	13 (13)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)
		国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)
	分	計	50 (50)	26 (26)	18 (18)	6 (6)	100 (100)	0 (0)
		既設	基盤教育推進機構	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		計	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	- (-)
	合計		53 (53)	26 (26)	18 (18)	6 (6)	103 (103)	0 (0)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計	
	事務職員		75人 (75)		41人 (41)		116人 (116)	
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0人 (0)	
	図書館専門職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)	
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0人 (0)	
	計		77 (77)		41 (41)		118 (118)	
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	33,082.㎡	-	-		33,082.㎡		
	運動場用地	42,267.㎡	-	-		42,267.㎡		
	小計	75,349.㎡	-	-		75,349.㎡		
	その他	7,413.㎡	-	-		7,413.㎡		
	合計	82,762.㎡	-	-		82,762.㎡		
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	26,732.㎡ (26,732㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		26,732.㎡ (26,732㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	21室	50室	11室	2室 (補助職員3人)	1室 (補助職員1人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数				
	大学全体			117室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	205,000〔17,800〕 (179,657〔17,682〕)	2,100〔198〕 (2,076〔198〕)	3,500〔2,030〕 (3,449〔2,023〕)	5,000 (4,764)	6,520 (6,520)	51 (51)	
	計	205,000〔17,800〕 (179,657〔17,682〕)	2,100〔198〕 (2,076〔198〕)	3,500〔2,030〕 (3,449〔2,023〕)	5,000 (4,764)	6,520 (6,520)	51 (51)	

図書館		面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体
		2,048.00㎡		291			214,830冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,404.40 ㎡		テニスコート5面			該当なし			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナルの整備費（運用コスト）を含む
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	-	-	
		共同研究費等		9,950千円	9,950千円	9,950千円	9,950千円	-	-	
		図書購入費	24,269千円	24,269千円	24,269千円	24,269千円	24,269千円	-	-	
	設備購入費	273,589千円	273,589千円	273,589千円	273,589千円	273,589千円	-	-		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		保健医療学部	1,880千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	- 千円	- 千円		
		その他学部	1,459千円	1,159千円	1,159千円	1,159千円	- 千円	- 千円		
		人間行動学研究科	920千円	720千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		看護学研究科	1,100千円	900千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、法人内資産移動などを運営費に充当する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		関西国際大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	人間科学部	年	人	年次人	人		倍			
	経営学科	4	-	3年次	-	学士(経営学)	-	平成23年度	兵庫県三木市志染町青山1-18	平成31年4月より学生募集停止
	人間心理学科	4	125	-	500	学士(行動科学)	1.00	平成19年度		
	経営学部			3年次			1.14			
	経営学科	4	100	20	440	学士(経営学)	1.14	平成31年度		
	保健医療学部						1.14			
	看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.14	平成25年度		
	教育学部						1.08		兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号	平成31年4月より学生募集停止
教育福祉学科	4	150	-	600	学士(教育福祉学)	1.08	平成19年度			
英語コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(英語学)	-	平成19年度			
国際コミュニケーション学部						1.14				
英語コミュニケーション学科	4	50	-	200	学士(英語学)	1.14	平成31年度			

既設大学等の状況	大学の名称	関西国際大学大学院							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	人間行動学研究科	年	人	年次人	人		0.81		
	人間行動学専攻	2	8	-	16	修士 (人間行動学)	0.44	平成18年度	兵庫県三木市志染町青山1-18
	臨床教育学専攻	2	8	-	16	修士 (教育学)	1.19	平成26年度	兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号
	看護学研究科						0.67		
	看護学専攻	2	6	-	12	修士 (看護学)	0.67	平成27年度	兵庫県三木市志染町青山1-18
附属施設の概要	なし								

教育課程等の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
KUISベ リック	初年次教育	評価と実践Ⅰ	1					○	1	4	3	2			
	評価と実践Ⅱ	2~4年	1					○	1	4	3	2			
	リーダーシップ演習	1年冬		1				○						兼1 集中	
	初年次セミナー	1年春	1					○		1	1				
	学習技術	1年秋	1					○		1	1				
	リサーチ入門	1年春		1				○						兼1	
コ モ ン ベ ー シ ッ ク ス	第1外国語	基礎英語	1年春	2				○						兼3	
		総合英語Ⅰ	1年秋	2				○						兼3	
		総合英語Ⅱ	2年春	2				○						兼3	
		オーラルイングリッシュⅠ	1年秋		1			○						兼1	
		オーラルイングリッシュⅡ	2年春秋		1			○						兼1	
		オーラルイングリッシュⅢ	2年春秋		1			○						兼1	
		インテンシブイングリッシュⅠ	1年夏		1			○						兼1 集中	
		インテンシブイングリッシュⅡ	1年冬		1			○						兼1 集中	
	外国語 (第2外国語 その他の語)	中国語Ⅰ	1年春		2			○						兼1	
		中国語Ⅱ	1年秋		2			○						兼1	
		韓国・朝鮮語Ⅰ	1年春		2			○						兼1	
		韓国・朝鮮語Ⅱ	1年秋		2			○						兼1	
	情報	ICTリテラシー	1年春		2			○						兼2	
		ICT活用A	1年春秋		2			○						兼1	
ICT活用B		2年秋		2			○						兼1		
ICT活用C		2年夏冬		2			○						兼1 集中		
健康と スポーツ	生涯スポーツⅠ	1年春		1			○						兼1		
	生涯スポーツⅡ	1年秋		1			○						兼1		
小計(24科目)				10	25	0		—						兼27	
基 盤 教 育 科 目	人間の 理解	人間学Ⅰ	1年春	2				○						兼3	オムニバス
		人間学Ⅱ	1年秋	2				○						兼3	オムニバス
		倫理と社会生活(倫理学)	1年秋		2			○						兼1	
		教育と人間形成(教育学)	1年秋		2			○						兼1	
		比較宗教論(宗教学)	1年春		2			○						兼1	
		人権と法	1年秋		2			○						兼1	
	社会と 生活	近現代の歴史(歴史学)	1年春		2			○						兼1	
		社会階層と文化(社会学)	1年秋		2			○						兼1	
		国際社会と政治(政治学)	1年秋		2			○						兼1	
		日本国憲法	1年春		2			○						兼1	
	科学と 生活	環境と生活(環境学)	1年秋		2			○						兼1	
		生命と倫理(倫理学)	1年秋		2			○						兼1	
		情報と社会(情報学)	1年春		2			○						兼1	
		食と健康(栄養学)	1年春		2			○						兼1	
	小計(14科目)				4	24	0		—						兼18
	グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ス タ	グローバルスタディⅠ	3年冬		1				○	1					集中
		グローバルスタディⅡ	3年夏		2				○						兼1 集中
		グローバルスタディⅢ	3年夏		3				○						兼1 集中
		地域研究(北米圏)	1年春		2			○						兼1	
		地域研究(アジア圏)	1年秋		2			○						兼1	
		日本文化論(日本文化)	1年春		2			○						兼1	
ニ コ ミ ニ テ ィ ユ		ボランティア論(地域社会)	1年秋		2			○						兼1	
災害と安全(危機管理)	1年冬		2			○						兼1	集中		
地域防災減災論	1年冬		2			○						兼1	集中		
小計(9科目)				0	18	0		—	0	0	0	0	0	兼8	
計(47科目)				14	67	0		—						兼52	

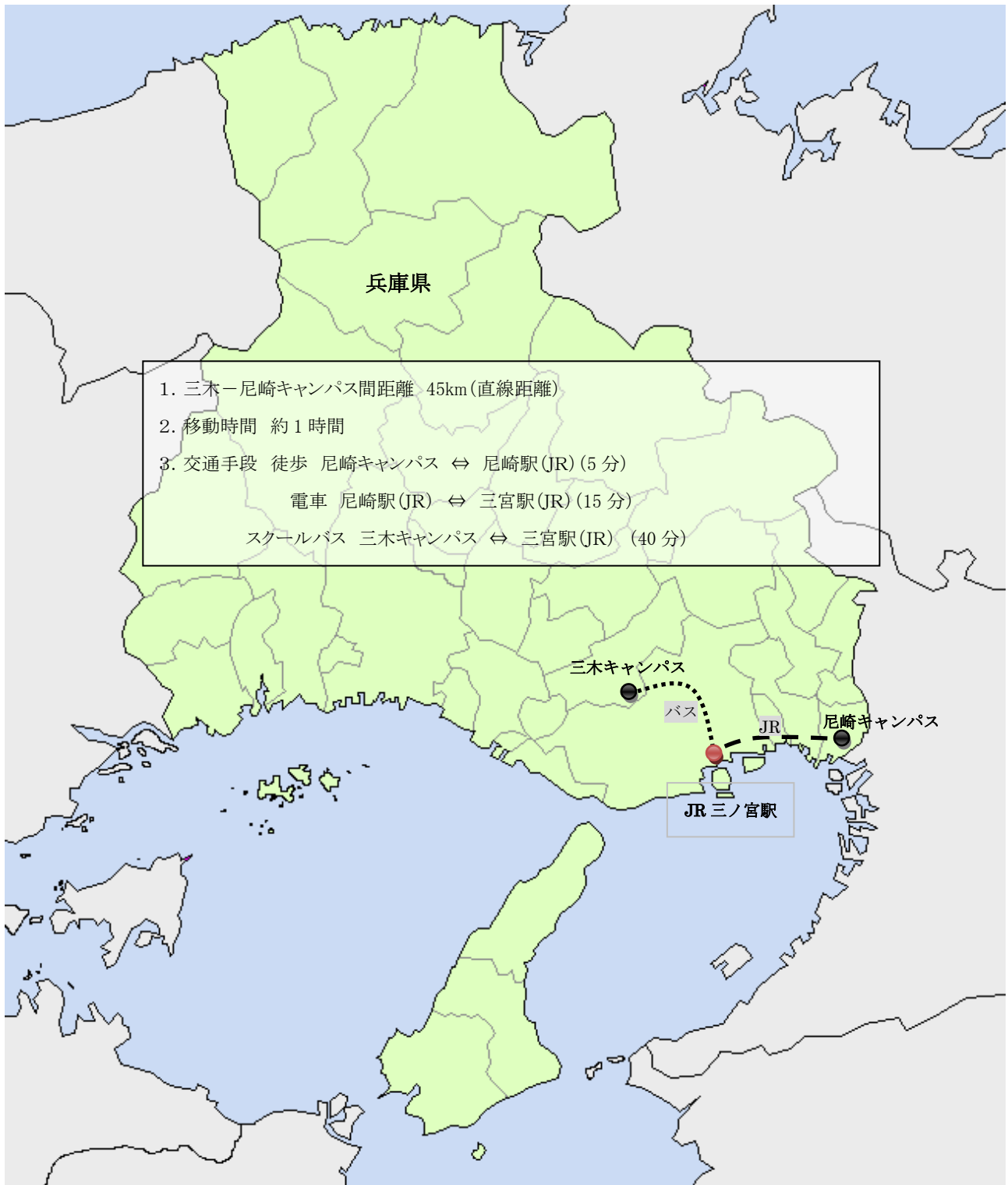
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人間と健康	形態機能学Ⅰ(運動器・神経系)	1年春	2			○								兼1	
		形態機能学Ⅱ(循環器・内臓系)	1年春	2			○								兼1	
		生化学	1年春	1			○								兼1	
		薬理学	1年春	1			○								兼1	
		臨床栄養学	1年秋	1			○								兼1	
		免疫学	1年春	1			○								兼1	
		病態学	1年秋	1			○								兼1	
		疾病・治療論Ⅰ(内科系)	1年秋	1			○								兼1	
		疾病・治療論Ⅱ(外科系)	1年秋	1			○								兼1	
		疾病・治療論Ⅲ(精神/老年)	1年秋	1			○								兼2	
		疾病・治療論Ⅳ(母性/小児)	1年秋	1			○								兼2	
		多専門職連携医療論	3年春	1			○								兼1	
		遺伝学	1年秋		1		○								兼1	
		生物学基礎	1年春		1		○								兼1	
	化学基礎	1年春		1		○								兼1		
	心理学基礎	1年春		1		○								兼1		
	人間と環境	家族社会学	2年春		1		○								兼1	
		環境保健学	1年秋	1			○								兼1	
		疫学	1年秋	2			○								兼1	
		保健統計学	1年秋	2			○								兼1	
		保健医療福祉行政論	3年春		2		○								兼1	
小計(21科目)			19	7	0		—		0	0	0	0	0	兼23		
専門教育科目	基礎看護学	基礎看護学概論	1年春	2			○			1						
		基礎看護学方法論	1年秋	2			○			1		1	2			
		基礎看護技術Ⅰ(生活援助)	1年秋	1			○			1		1	2			
		基礎看護技術Ⅱ(治療援助)	1年秋	1			○			1		1	2			
		基礎看護技術Ⅲ(看護過程)	2年春	1			○			1		1	2			
		セイフティマネジメント	3年秋	1			○								兼1	
		看護マネジメント	3年秋	1			○								兼1	
		基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)	1年夏	1					○	1		1	2			集中
		基礎看護学実習Ⅱ(看護援助過程)	2年秋	2					○	1		1	2			
	療養支援看護学	成人健康看護学概論	2年春	2			○			2						
		急性・重症看護援助論	2年春	2			○			1	1		1			
		慢性看護援助論	2年春	2			○			1	1	1				
		がん看護援助論(含む終末期)	2年秋	1			○			1						
		急性・慢性看護技術演習	2年秋	1			○			2	2					
		急性看護学実習	3年通	3					○	1	1		1			
		慢性看護学実習	3年通	3					○	1	1	1				
		精神健康看護学概論	2年春	2			○				1					
		精神看護援助論	2年秋	2				○			1	1	1			
		精神看護学実習	3年通	2					○		1	1	1			
	家族支援看護学	小児健康看護学概論	2年春	2			○			1						
		小児看護援助論	2年秋	2				○		1		2				
		小児看護学実習	3年通	2					○	1		2	1			
		母性健康看護学概論	2年春	2			○			1						
		母性看護援助論	2年秋	2				○		2	1					
		母性看護学実習	3年通	2					○	2	1					
		基礎助産学	2年秋		2		○			1						
		助産診断技術学Ⅰ	3年冬		2			○		1		1				集中
助産診断技術学Ⅱ		4年春		4			○		1		1					
助産管理	3年秋		1			○		1		1						
助産学実習	4年通		7					○	1		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
生活支援看護学	老年健康看護学概論	2年春	2			○			1						
	老年看護援助論	2年秋	2				○		1	1	1				
	老年看護学実習	3年通	3					○	1	1	1				
	在宅看護学概論	2年春	2			○			1		1				
	在宅看護援助論	2年秋	2				○		1		1				
	在宅看護学実習	3年通	1					○	1		1				
	公衆衛生看護学概論	2年春	2			○			2		1				
	個人・家族・集団・組織の支援活動論	3年冬		2		○			2		1			集中	
	公衆衛生看護活動展開演習	4年春		3			○		2		1				
	公衆衛生看護管理論	4年春		2			○		2		1				
	公衆衛生看護学実習	4年通		4				○	2		1				
専門教育科目	総合看護	代替療法看護論	4年春		1		○							兼1	
		災害看護論	4年春		1		○							兼1	
		国際看護論	2年秋	1			○			1					
		看護研究方法	4年春	2			○			1					
		実践看護学特演	4年通		3			○							
		統合看護実習	4年春	4					○	10	6	8	6		
		卒業研究	4年通	4					○	10	6	8	6		
小計(49科目)			69	32	0		—		10	6	8	6		兼5	
計(70科目)			88	39	0		—		10	6	8	6		兼28	
合計(117科目)			102	106	0		—								
学位または称号		学士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業要件としては、共通教育科目と専門教育科目を合わせて126単位の取得を必要としている。その履修方法とそれに伴う要件単位は、以下の通りである。 【基盤教育科目】 「初年次教育」科目区分の4科目(評価実践Ⅰ、評価と実践Ⅱ、初年次セミナー、学習技術(各1単位))は、必須科目として履修する。「第1外国語」の科目区分からは、基礎英語、総合英語Ⅰ、総合英語Ⅱ(各2単位)を必須科目として6単位を履修する。「人間学総合教育科目」の科目区分からは、人間学Ⅰ、人間学Ⅱ(各2単位)を必須科目として履修するほか、「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の各科目区分から最低1科目2単位以上を履修する。 上記の履修により、基盤教育科目から合計18単位を最低の修得単位数とする。 【専門教育科目】 「専門基礎科目」科目区分より必修科目19単位及び選択必修科目を14単位の計33単位、「専門科目」科目区分より69単位を必修科目として履修する。専門教育科目から、合計102単位を最低の修得単位数とする。上述の科目以外の選択科目より、計6単位以上の選択科目を履修する。 基盤教育科目と専門教育科目を合わせて合計126単位以上を修得することとする。 (履修科目の登録の上限 原則 22単位(1学期))						1学年の学期区分		4期							
						1学期の授業期間		春学期(16週) 夏学期(8週) 秋学期(16週) 冬学期(8週)							
						1時限の授業時間		90分							

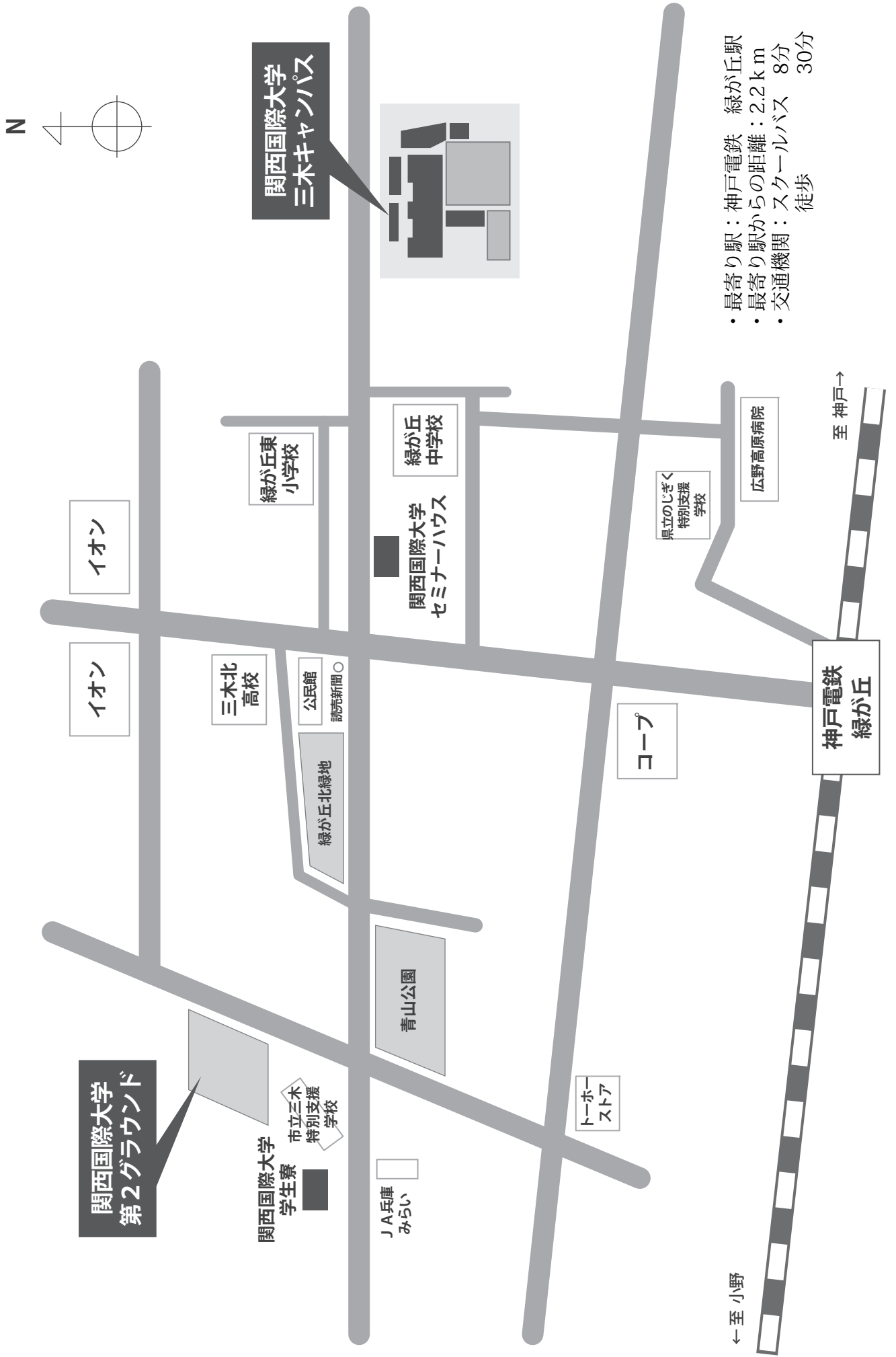
学校法人濱名学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
関西国際大学					関西国際大学					
人間科学部	人間心理学科	125	-	500	人間科学部	人間心理学科	125	-	500	
経営学部	経営学科	100	3年次 20	440	経営学部	経営学科	100	3年次 20	440	
教育学部	教育福祉学科	150	-	600	教育学部	教育福祉学科	150	-	600	
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50	-	200	国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50	-	200	
保健医療学部	看護学科	80	-	320	保健医療学部	看護学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	定員変更(20) (認可申請)
	計					計	<u>525</u>	3年次 <u>20</u>	<u>2,140</u>	
関西国際大学大学院					関西国際大学大学院					
人間行動学研究科人間行動学専攻(M)		8	-	16	人間行動学研究科人間行動学専攻(M)		8	-	16	
人間行動学研究科臨床教育学専攻(M)		8	-	16	人間行動学研究科臨床教育学専攻(M)		8	-	16	
看護学研究科看護学専攻(M)		6	-	12	看護学研究科看護学専攻(M)		6	-	12	
計		22		44	<u>看護学研究科看護学専攻(D)</u>		<u>2</u>	-	<u>6</u>	課程変更 (認可申請)
	計					計	<u>24</u>		<u>50</u>	
関西保育福祉専門学校					関西保育福祉専門学校					
保育専門課程保育科		140	-	280	保育専門課程保育科		<u>100</u>	-	<u>200</u>	定員変更 (△20)
福祉専門課程介護福祉科		40	-	80	福祉専門課程介護福祉科		40	-	80	
計		180	-	360	計		<u>140</u>		<u>280</u>	

①都道府県内における位置関係の図面

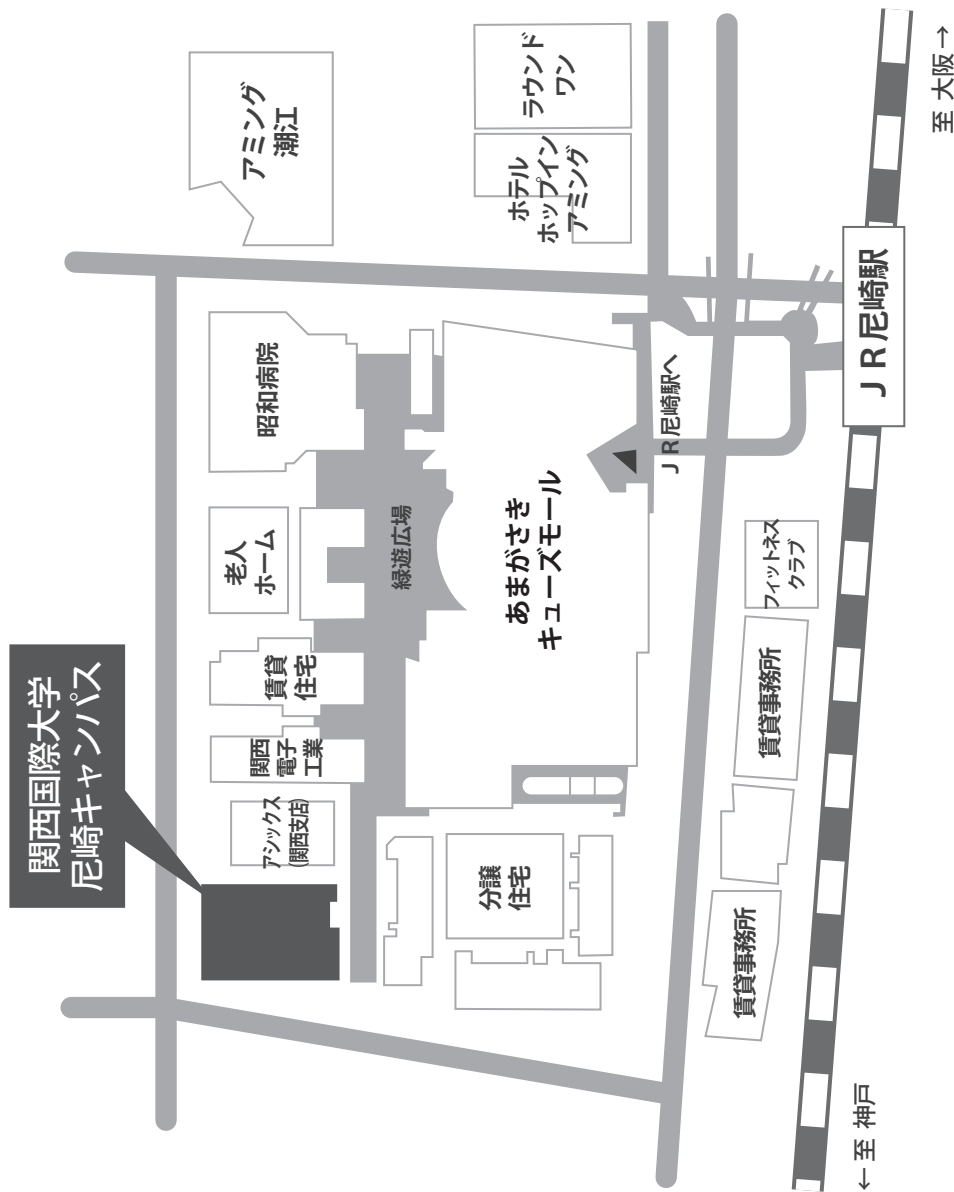


②最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面（三木キャンパス）

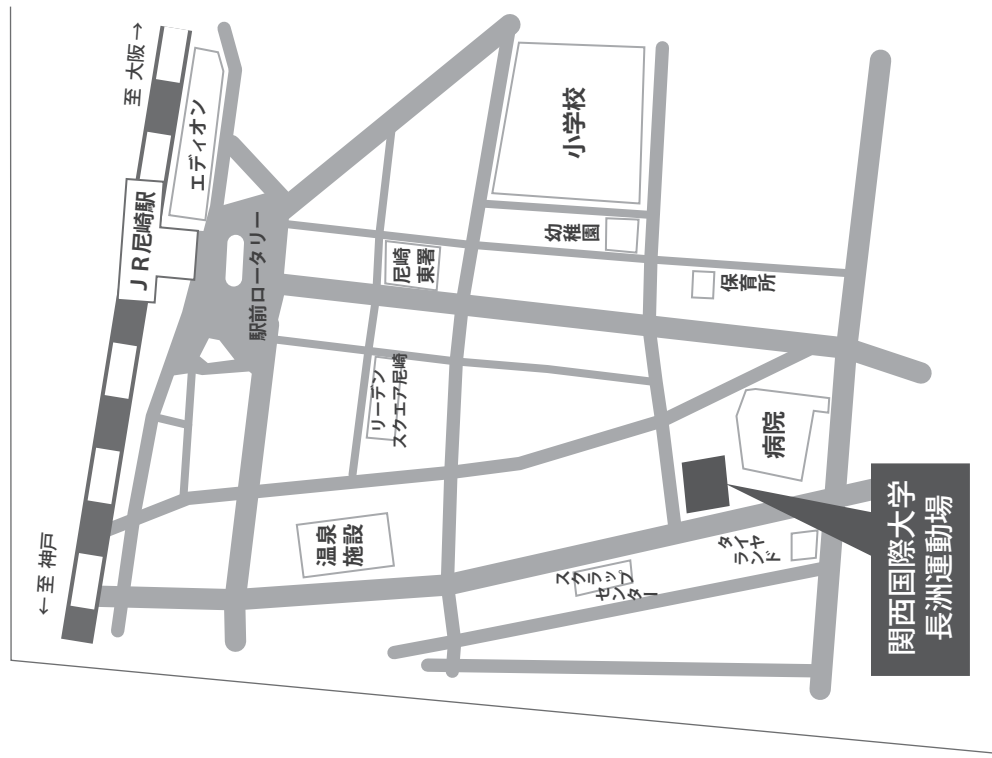
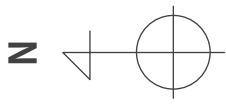


- 最寄り駅：神戸電鉄 緑が丘駅
- 最寄り駅からの距離：2.2 km
- 交通機関：スクールバス 8分
徒歩 30分

②最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面（尼崎キャンパス）



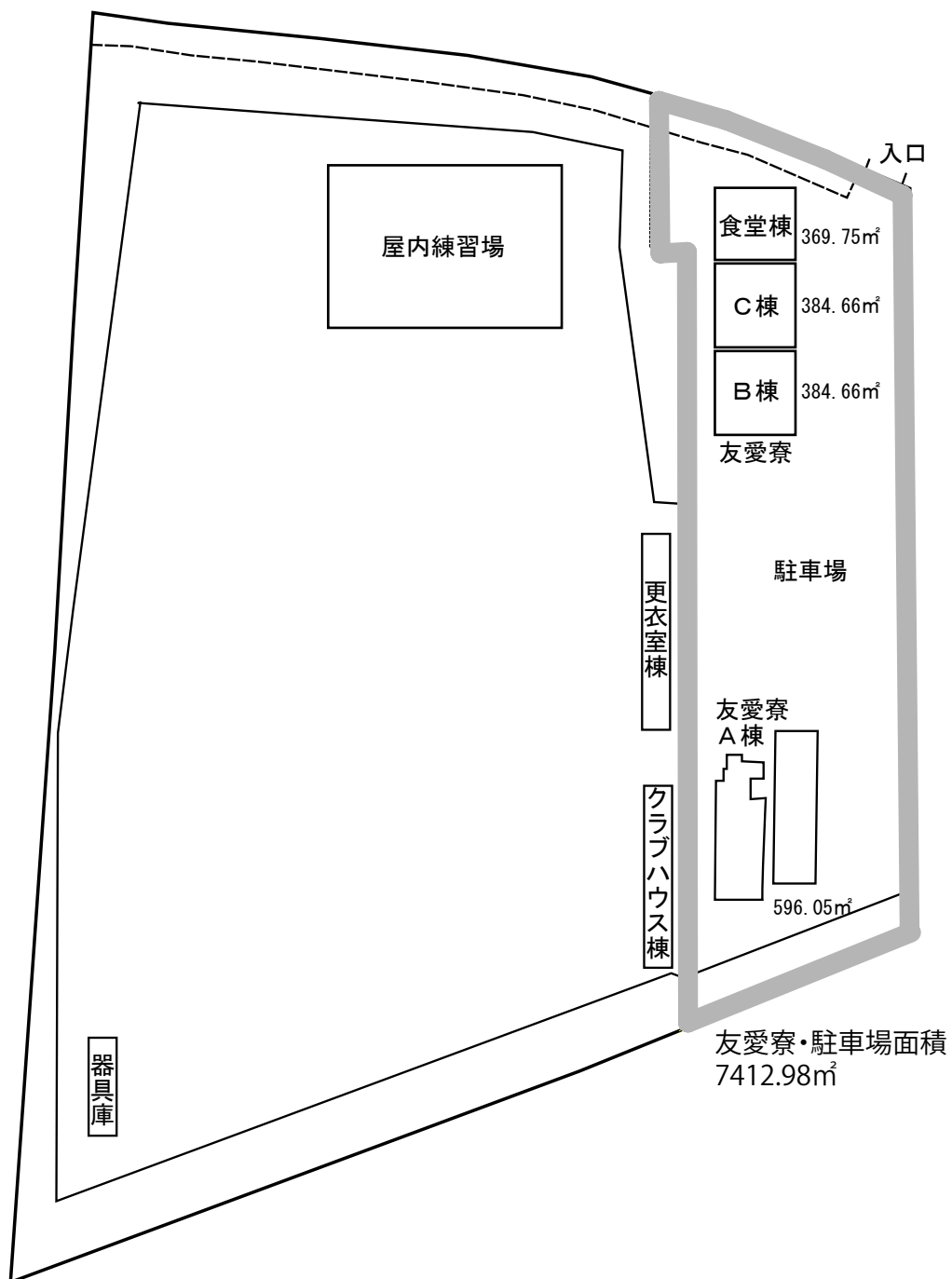
- 最寄り駅：JR 尼崎駅
- 最寄り駅からの距離： 0.6 k m
- 交通機関：徒歩 7分



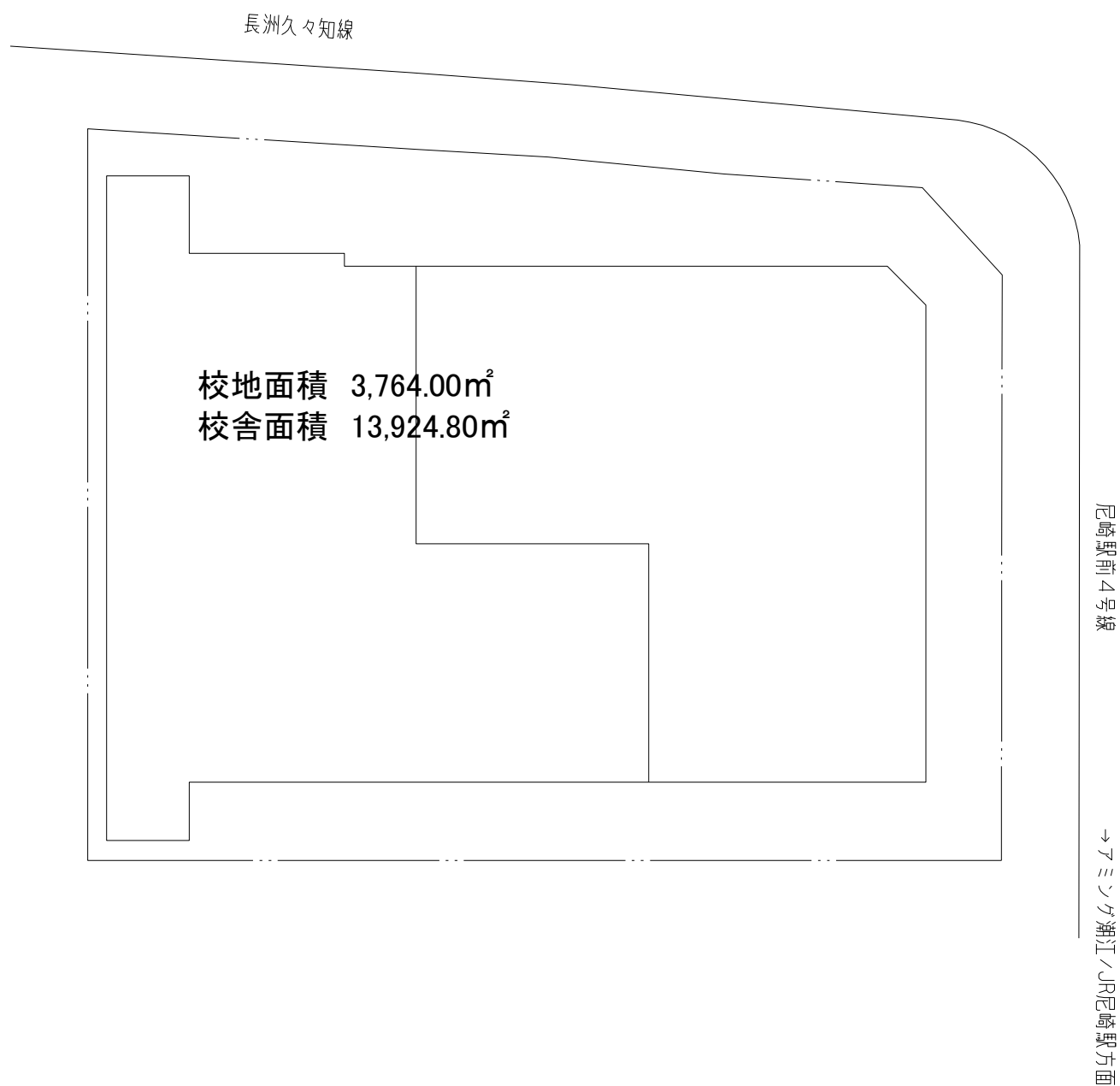
関西国際大学第2グラウンド

校地面積32,978.00㎡

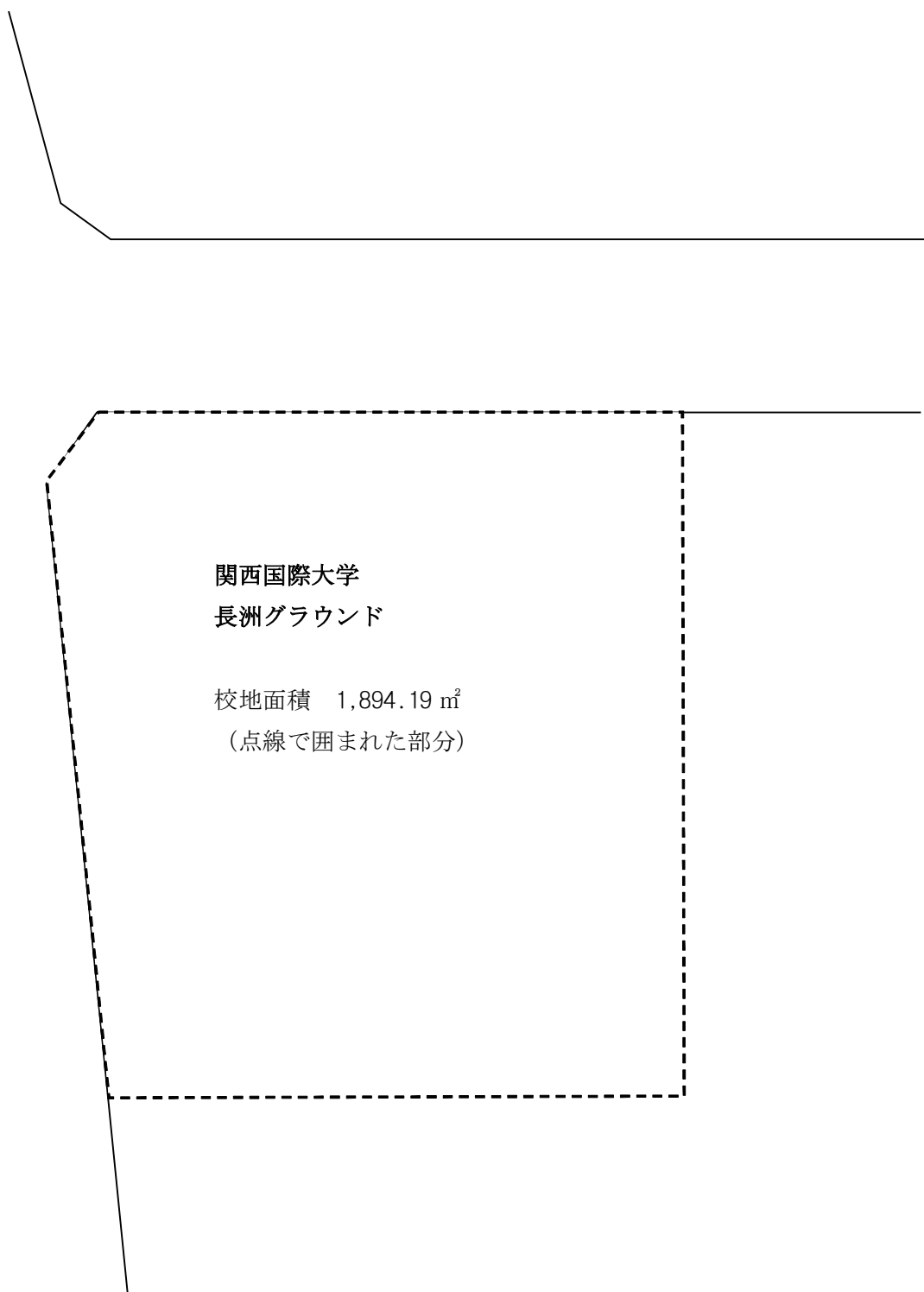
(校地面積は実線で囲まれた部分。ただし友愛寮・駐車場用地の面積(7412.98㎡を除く)



尼崎キャンパス配置図



関西国際大学長洲グラウンド



関西国際大学学則（案）

第1章 総 則

（目 的）

第1条 関西国際大学（以下、「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、グローバルな視野に立った教養を基礎とする専門的知識・技術を修得し、国際社会において活躍できる人材を育成することを目的とする。

（教育目標）

第1条の2 前条に規定する目的を実現するために、本学は次の各号に定める力・資質を修得・涵養し、総合的に活用できる人材を養成することを教育目標とする。

- (1) 自律できる力
- (2) 社会に貢献できる力
- (3) 心豊かな世界市民としての資質
- (4) 問題発見・解決能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 専門的知識・技術

2 前項を踏まえた学部・学科の教育目標は、各学部の学部規則で定める。

3 本条に規定する教育目標の達成方法及び評価方法は、別に定める。

（自己評価等）

第2条 本学は、教育水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項に定める評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については、別に定める。

第2章 学部・学科、学生定員及び修業年限

（学部・学科及び学生定員）

第3条 本学において設置する学部・学科・専攻及びその学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
経営学部	経営学科	100人	20人	440人
人間科学部	人間心理学科	125人	—	500人
教育学部	教育福祉学科	150人	—	600人
	福祉学専攻	30人	—	120人
	こども学専攻	120人	—	480人
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50人	—	200人
保健医療学部	看護学科	100人	—	400人

（短期大学部）

第4条（削 除）

（大学院）

第4条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関することは、別に定める。

（別科）

第4条の3 本学に別科を置く。

2 別科に関することは別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第14条及び第15条の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第3章 学年、学期及び休業日

(学 年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学 期)

第7条 学年を次の4学期に分ける。

春学期	4月1日から7月31日まで
夏学期(集中)	8月1日から9月30日まで
秋学期	10月1日から翌年1月31日まで
冬学期(集中)	2月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする

日曜日

国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

夏期休業日 8月1日から8月31日まで

冬期休業日 12月24日から翌年1月6日まで

春期休業日 3月21日から3月31日まで

2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第4章 入学、退学及び休学

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、春学期または秋学期の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を終了した者を含む)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) その他、相当の年齢に達し、本学において高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 その他提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

(入学者の選考)

第 12 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第 13 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は所定の期日までに、誓約書、身元保証書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の納付金を納入しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第 14 条 本学に、編入学を志願する者は、第 3 条に定める編入学定員の枠内又は欠員のある場合、選考の上、3 年次に学長が入学を許可する。

2 編入学の入学資格は、次の各号の一に該当するものとする。

(1) 短期大学を卒業した者

(2) 他の大学において、2 年以上在学し、62 単位以上修得した者

(3) 大学を卒業した者

(4) 専修学校の専門課程を修了した者

3 その他、編入学について必要な事項は、別に定める。

(再入学・転入学)

第 15 条 本学に再入学、又は転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に学長が入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(転学部・転学科・転専攻)

第 16 条 転学部・転学科・転専攻を希望する者がある時は、選考の上、学長が許可することがある。

2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(退学)

第 17 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第 18 条 疾病その他やむを得ない事情により 3 ヶ月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学をすることができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第 19 条 休学の期間は 1 年を超えることができない。ただし特別の事由がある場合は、引き続き更に 1 年を限度として延長を認めることができる。

2 休学の期間は通算して 2 年を超えることができない。

3 休学の期間は第 5 条第 2 項の在学年限に算入しない。

(留学)

第 20 条 外国の大学又は短期大学で学修を志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項により留学する期間は、原則として 3 ヶ月以上 1 年以内とし、2 年を限度とする。

3 第 1 項により留学する者は、許可された期間のうち 1 年を限度として、第 33 条に定める在学年限に算入することができる。

4 本条に定めるもののほか、留学について必要な事項は、別に定める。

(復学)

第 21 条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第 22 条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 第 5 条第 2 項に定める在学年限を超えた者

(2) 第 19 条第 2 項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

(3) 授業料等の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

- (4) 死亡または長期にわたり行方不明の者
2 除籍となった者の復籍については別に定める。

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第23条 授業科目を分けて、専門教育科目、共通教育科目及び学術課題研究科目とする。

- 2 授業科目の種類、単位数等は別表第1-1から第1-5のとおりとする。
- 3 前1項に定めるもののほか、教職に関する科目及び教科に関する科目を置く。
- 4 前3項の授業科目の種類、単位数等は別表第2のとおりとする。

(KUISオナーズプログラム)

第23条の2 各学部(保健医療学部を除く。)に、学部横断型の教育を行うための教育課程として、KUISオナーズプログラムを置く。

- 2 KUISオナーズプログラム及び当該プログラムの教育を受ける学生の卒業の認定については、KUISオナーズプログラム規則により定める。

(授業期間)

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の計算方法)

第25条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 講義、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作、課題研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第26条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与えるものとする。

(学習の評価)

第27条 試験等の評価は優、良、可、不可、または認定をもって表わし、可以上あるいは認定を合格とする。

(入学前の既修得単位等の取扱い)

第28条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った他の大学又は短期大学における学修又は文部科学大臣が別に定める学修を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を認定することができる。

- 2 前項により修得したものとして認定することのできる単位数は、編入学等を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 前2項の単位認定の取り扱いについては、別に定める。
- 4 前3項の単位認定の取り扱いについては、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第29条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(外国の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第30条 本学において教育上有益と認めるときは、外国の大学又は短期大学との協議により、学生が

休学することなく当該外国の大学又は短期大学において学修することを認めることがある。

2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第31条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他本学が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を認定することができる。

2 前項により認定できる単位数は、第29条第1項により本学において修得したのものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 前2項の単位認定の取扱いについては、別に定める。

第32条 第29条、第30条及び第31条の規定により他の大学又は短期大学あるいは外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したのものとして認定することができる単位数は、すべてを合わせて60単位を超えない範囲とする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第32条の2 学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることがある。

2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

第6章 卒業等

(卒業の要件)

第33条 本学を卒業するためには、学生は、休学期間及び特別履修期間を除いて、4年以上在学し、別表第1に定めるところにより、126単位以上を取得しなければならない。

(卒業)

第34条 本学に休学期間及び特別履修期間を除いて、4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 卒業の期日は、3月31日又は9月30日とする。

(学位)

第35条 前条の規定に基づき、本学を卒業した者に対しては、学士の学位を授与する。

2 学位には、専攻分野の名称を付記するものとする。

3 前項の専攻分野の名称は、別に定める。

第7章 資格

(免許状・資格の種類)

第36条 本学において取得することができる免許状及び資格の種類は、次のとおりである。

人間科学部 人間心理学科 …………… 中学校教諭一種免許状・社会
高等学校教諭一種免許状・公民
認定心理士(日本心理学会)

教育学部 教育福祉学科
福祉学専攻 …………… 社会福祉士受験資格
保育士資格
こども学専攻 …………… 特別支援学校教諭一種免許状
(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)
保育士資格
幼稚園教諭一種免許状
小学校教諭一種免許状

国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

…………… 中学校教諭一種免許状・英語
 高等学校教諭一種免許状・英語
 保健医療学部 看護学科 …………… 保健師国家試験受験資格
 助産師国家試験受験資格
 看護師国家試験受験資格

(教員免許状の取得)

第 37 条 教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 教員免許状を取得しようとする者は、別に定める実習指導料及び教育実習委託費を納入しなければならない。

3 その他、教員免許状を取得するために必要な事項は、別に定める。

第 38 条 (削除)

(認定心理士資格の取得)

第 39 条 認定心理士資格を取得しようとする者は、日本心理学会と人間科学部人間心理学科が定める所定の授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 その他、認定心理士資格を取得するために必要な事項は、別に定める。

(保育士資格の取得)

第 39 条の 2 保育士資格を取得しようとする者は、児童福祉法及び同法施行規則に定める所定の授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 その他、保育士資格を取得するために必要な事項は、別に定める。

(社会福祉士受験資格の取得)

第 39 条の 3 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 その他、社会福祉士受験資格を取得するために必要な事項は、別に定める。

(社団法人日本社会福祉士養成校協会認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程の設置)

第 39 条の 4 本学に社団法人日本社会福祉士養成校協会認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程(以下、「認定課程」という。)をおく。

2 認定課程を修了し、社会福祉士の登録を受けた者については、本学が社団法人日本社会福祉士養成校協会に申請することにより、「社団法人日本社会福祉士養成校協会認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程修了者」として修了証の交付を受けることができる。

3 認定課程の履修等に関する事項は、別に定める。

第 39 条の 5 保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格及び看護師国家試験受験資格を取得しようとする者は、本学が定める所定の授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 その他、保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格及び看護師国家試験受験資格を取得するために必要な事項は、別に定める。

第 8 章 入学検定料、入学金、授業料等納付金

(入学検定料等の金額)

第 40 条 本学の入学検定料、入学金、授業料等の金額は別表第 3 のとおりとする。

(授業料等の納入期)

第 41 条 授業料等は年額の 2 分の 1 ずつを次の 2 期に分けて納入しなければならない。

区 分	納 入 期
1 期 (4 月から 9 月まで)	4 月中
2 期 (10 月から翌年 3 月まで)	10 月中

2 やむを得ない事情によって、授業料等の分納・延納を希望する学生の取扱いについては、別に定める。

(退学及び停学の場合の授業料等)

第42条 学期の途中で退学し又は停学となった者の当該納入期分の授業料及び教育改善費は納入しなければならない。

2 停学期間中の授業料及び教育改善費は納入しなければならない。

(休学の場合の授業料等)

第43条 休学を許可され又は命ぜられた者については、休学した月の翌月から復学する月の前月までの期間、授業料を納入するものとする。ただし、この場合の授業料の額は、年額で18万円とし、その12分の1をもって月額として算定する。

(復学の場合の授業料等)

第44条 復学を許可された者については、復学した月から授業料等を納入するものとする。ただし、この場合の授業料等の額は、第40条に定める授業料等(年額)の12分の1をもって月額として算定する。

(学年の途中で卒業する場合の授業料等)

第45条 学年の途中で卒業する者は、卒業する見込みの月までの授業料等を納入するものとする。ただし、この場合の授業料等の額は、第44条但書に準ずるものとする。

(納入した授業料等)

第46条 納入した入学検定料、入学金及び授業料等は、原則として返還しない。

(科目等履修生の入学検定料及び授業料等)

第47条 科目等履修生の入学検定料及び授業料等については、別に定める。

第9章 教職員組織

(職員組織)

第48条 本学に学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 本学に、副学長、学長補佐を置くことができる。

第10章 教授会、大学協議会及び委員会

(教授会)

第49条 本学の学部、それぞれ教授会を置く。

2 教授会は、教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

3 教授会は、学長が意思決定を行うために掲げる次の事項について審議し、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4 教授会は、前項が規定するもののほか、教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 第3項第3号については、学長裁定により別に定める。

6 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。

(大学協議会)

第50条 本学に、大学協議会を置く。

2 大学協議会は、学長、副学長、学長補佐、大学院研究科長、学部長、学長の指名する委員長、大学事務局長、大学事務局次長、部長及び学長の指名する職員をもって構成する。

3 大学協議会は、学長が意思決定を行うために掲げる次の事項について審議する。

(1) 学則その他学内諸規程の制定及び改廃に関する事項

(2) 教育・研究計画に関する事項

- (3) 教員人事の基準に関する事項
- (4) 学生の厚生補導及びその身分に関する事項
- (5) 全学的及び学部間の連絡調整に関する事項
- (6) その他、教育研究に関し学長が意見を求める事項

4 本条に定めるもののほか、大学協議会に関して必要な事項は、別に定める。
(委員会)

第 50 条の 2 本学に委員会を置く。

2 委員会に関することは、別に定める。

第 11 章 研究生、科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

(研究生)

第 51 条 本学において特定の事項について研究をすることを志願する者があるときは、選考の上、研究生として学長が入学を許可することがある。

2 その他、研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第 52 条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて選考の上、科目等履修生として学長が履修を許可することがある。

2 科目等履修生には第 25 条、第 26 条及び第 27 条に基づき、本学の正規の単位及び評価を与える。

3 その他、科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第 53 条 本学において特定の授業科目を受講することを志願する者があるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて選考の上、聴講生として学長が受講を許可することがある。

2 聴講生は、当該科目を受講した場合も単位を取得することはできない。

3 その他、聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第 54 条 外国人で大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者は、選考の上、外国人留学生として学長が入学を許可することがある。

2 その他、外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第 12 章 賞 罰

(表 彰)

第 55 条 学生として表彰に値する行為があった者は、学長が表彰する。

(罰 則)

第 56 条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 13 章 学生寮

(学生寮)

第 57 条 本学に学生寮を置く。

2 学生寮に関して必要な事項は、別に定める。

第14章 公開講座

(公開講座)

第58条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため本学に公開講座を開設することができる。

2 その他、公開講座について必要な事項は、別に定める。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 第3条の規定による経営学部経営学科の収容定員は、平成12年度から平成14年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
			収容定員	収容定員	収容定員
経営学部	経営学科		1,000人	1,100人	1,200人

附 則

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 第3条の規定による人間学部人間行動学科及び英語コミュニケーション学科の収容定員は、平成13年度から平成15年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
			収容定員	収容定員	収容定員
人間学部	人間行動学科		200人	400人	600人
	英語コミュニケーション学科		100人	200人	300人

- 第4条の規定による短期大学部は、平成13年3月31日に短期大学部に在学する者が短期大学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 第3条の規定による経営学部経営学科及び総合ビジネス学科の収容定員は、平成16年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
経営学部	経営学科		850人	550人	200人	0人
	総合ビジネス学科		150人	300人	500人	700人

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。

2 第3条の規定による経営学部総合ビジネス学科、人間学部人間行動学科及び英語コミュニケーション学科の収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
経営学部	総合ビジネス学科		300人	480人	660人	660人
	(うち3年次編入学)		0人	30人	60人	60人
人間学部	人間行動学科		800人	800人	800人	800人
	英語コミュニケーション学科		350人	300人	250人	200人

3 平成16年3月31日に経営学部におかれている学科は、改正後の関西国際大学学則の規定にかかわらず平成16年3月31日に当該学科に在学する者（以下この項に置いて「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者が当該学科に在学なくなる日までの間、存続するものとする。

4 前2項に定めるもののほか、平成16年3月31日に経営学部におかれている学科の編入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成17年度	平成18年度
経営学部	経営学科		3年次編入学定員 30人	3年次編入学定員 0人

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第3条の規定による人間学部人間行動学科、人間心理学科及び教育福祉学科の収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
人間学部	人間行動学科		600人	400人	200人	0人
	人間心理学科		100人	200人	300人	400人
	教育福祉学科		100人	200人	300人	400人

附 則

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2 第3条の規定による人間学部ビジネス行動学科及び人間心理学科、教育学部教育福祉学科及び英語教育学科、人間学部人間行動学科、人間心理学科及び教育福祉学科、経営学部総合ビジネス

ス学科の収容定員は、平成 19 年度から平成 22 年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
人間科学部	ビジネス行動学科		150人	300人	450人	600人
	人間心理学科		115人	230人	345人	460人
教育学部	教育福祉学科		100人	200人	300人	400人
	英語教育学科		50人	100人	150人	200人
人間学部	人間行動学科		400人	200人	0人	0人
	人間心理学科		100人	100人	100人	0人
	教育福祉学科		100人	100人	100人	0人
	英語コミュニケーション学科		200人	100人	50人	0人
経営学部	総合ビジネス学科		510人	330人	150人	0人

附 則

- この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 第 35 条及び第 36 条の規定にかかわらず、改正前の学則による人間学部及び経営学部の各学科の学生が在籍する間の当該学生に関しては改正（平成 19 年 4 月 1 日）前の学則を適用する。

附 則

この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 第 35 条については、平成 19 年度以降の入学生に対し適用する。

附 則

- この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 第 35 条及び第 36 条の規定にかかわらず、改正前の学則による人間科学部ビジネス行動学科の学生が在籍する間の当該学生に関しては、改正（平成 23 年 4 月 1 日）前の学則を適用する。
- 第 3 条の規定による人間科学部経営学科、ビジネス行動学科及び人間心理学科、教育学部教育福祉学科及び英語教育学科の収容定員は、平成 23 年度から平成 26 年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年 度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
人間科学部	経営学科		150人	300人	450人	600人
	ビジネス行動学科		450人	300人	150人	0人

	人間心理学科	460人	460人	460人	460人
教育学部	教育福祉学科	600人	600人	600人	600人
	英語教育学科	200人	200人	200人	200人

附 則

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 改正前の学則による人間科学部ビジネス行動学科の学生が在籍する間の当該学生に関しては、改正（平成24年4月1日）前の学則を適用する。
- 第3条の規定による人間科学部経営学科、ビジネス行動学科及び人間心理学科、教育学部教育福祉学科、英語教育学科の、平成24年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科		年 度			
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
人間科学部	経営学科	250人	370人	490人	440人
	ビジネス行動学科	300人	150人	0人	0人
	人間心理学科	470人	480人	490人	500人
教育学部	教育福祉学科	600人	600人	600人	600人
	英語教育学科	200人	200人	200人	200人

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年11月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 人間科学部経営学科及び教育学部英語教育学科の学生が在籍する間の当該学生に関しては、改正（平成31年4月1日）前の学則を適用する。

3 第3条の規定による人間科学部経営学科、人間心理学科、教育学部教育福祉学科、英語教育学科保健医療学部看護学科、経営学部経営学科、国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の、令和元年度から平成33年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科		年 度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人間科学部	経営学科	340人	240人	120人	0
	人間心理学科	500人	500人	500人	500人
教育学部	教育福祉学科	600人	600人	600人	600人
	英語教育学科	150人	100人	50人	0
保健医療学部	看護学科	320人	320人	320人	320人
経営学部	経営学科	100人	200人	320人	440人
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50人	100人	150人	200人

附 則

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

2 第3条の規定による人間科学部経営学科、人間心理学科、教育学部教育福祉学科、英語教育学科保健医療学部看護学科、経営学部経営学科、国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の、令和2年度から令和5年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科		年 度			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人間科学部	経営学科	240人	120人	0人	0人
	人間心理学科	500人	500人	500人	500人
教育学部	教育福祉学科	600人	600人	600人	600人
	英語教育学科	100人	50人	0人	0人
保健医療学部	看護学科	340人	360人	380人	400人
経営学部	経営学科	200人	320人	440人	440人
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	100人	150人	200人	0人

別表第1-1 経営学部経営学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考	
		必修	選択			
基礎科目	経営学概論	4		20単位		
	経済学概論	4				
	マーケティング	4				
基 幹 科 目	ファイナンス	4			選択必修8単位以上	
	ビジネス統計学	4				
	地域経営概論		2			
	公共サービス論		2			
	コミュニティビジネス		2			
	地域マネジメント		4			
	セーフティマネジメント論		2			
	危機管理入門		2			
	企業危機管理論		2			
	防災・復興組織論		2			
専 門 教 育 科 展 開 科 目	ホスピタリティマネジメント		4	30単位以上		
	観光産業論		2			
	アジア文化論		2			
	インバウンドツーリズム産業論		2			
	サービス企画論		2			
	ビジネスプロモーション		2			
	ビジネスコミュニケーション技法		2			
	コンプライアンス		2			
	顧客満足論		2			
	発想法		2			
	観光実務論		2			
	観光産業特論		2			
	観光実務特論		2			
	インバウンド商品企画演習		2			
	実用英語A		2			
	実用英語B		2			
	ホテルマネジメント		2			
	ビューティビジネス論		2			
	ビューティ技術論		2			
	ビューティ・コーディネーター論		2			
	コスメティック論		2			
	ブライダル産業論		2			
	セレモニー産業論		2			
	セレモニー産業特論		2			
	地域マネジメント特論		2			
	環境保全論		2			
	公共サービス特論		2			
	危機管理・防災演習		2			
	危機管理リーダーシップ論		2			
	コミュニティ防災		2			
	国際防災協力		2			
	安全安心社会特論		2			
	フードセキュリティ		2			
	マーケティングリサーチ		2			
	インターネットマーケティング		2			
	国際経済論		2			
	アジアマーケティング論		2			
	経営戦略論		2			
	商業簿記		2			
	経営組織論		2			
	財務会計論		2			
	国際経営論		2			
	原価会計		2			
	経営分析		2			
	広告論		2			
	産業心理学		2			
	インターンシップ I		2			
インターンシップ II		4				

別表第1-1 経営学部経営学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考	
			必修	選択			
専門教育科目	総合演習科目	業界研究		2	} 20単位		
		プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		2			
		プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		2			
		プロジェクトマネジメント演習Ⅲ		4			
		プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		4			
		マネジメント専門演習		2			
		卒業研究		4			
基盤教育科目	ベ ー シ ッ ク ス	評価と実践Ⅰ	1		} 必修8単位		
		評価と実践Ⅱ	1				
		リーダーシップ演習		1			
		仕事とキャリア形成Ⅰ	2				
		仕事とキャリア形成Ⅱ		2			
		初年次セミナー	1				
		基礎演習	1				
		学習技術	1				
		リサーチ入門	1				
		コ モ ン ベ ー シ ッ ク ス	第1外国語	基礎英語			
	総合英語Ⅰ				2		
	総合英語Ⅱ				2		
	オーラルイングリッシュⅠ				1		
	オーラルイングリッシュⅡ				1		
	オーラルイングリッシュⅢ				1		
	インテンシブイングリッシュⅠ				1		
	インテンシブイングリッシュⅡ				1		
	第2外国語		英語Ⅰ		4		
			英語Ⅱ		4		
			英語Ⅲ		4		
			英語Ⅳ		4		
			中国語Ⅰ		2		
			中国語Ⅱ		2		
			韓国・朝鮮語Ⅰ		2		
			韓国・朝鮮語Ⅱ		2		
			マレー語		1		
	インドネシア語		1				
留 学 生 対 象	留 学 生 対 象	日本語Ⅰ		2	} 選択必修 10単位以上 日本語能力試験N1の 合格者は10単位中2単 位を認定、8単位履修		
		日本語Ⅱ		2			
		日本語Ⅲ		2			
		日本語Ⅳ		2			
		日本語Ⅴ		2			
		アカデミック日本語Ⅰ		1			
		アカデミック日本語Ⅱ		1			
		日本語ライティングⅠ		1			
		日本語ライティングⅡ		1			
		ビジネス日本語Ⅰ		1			
		ビジネス日本語Ⅱ		1			
		専門日本語Ⅰ		1			
専門日本語Ⅱ		1					
情 報	情 報	ICTリテラシー	2		} 必修科目含み2 単位以上		
		ICT活用A		2			
		ICT活用B		2			
		ICT活用C		2			
ポ ー ツ	健 康 と ス ポ ー ツ	生涯スポーツⅠ		1			
		生涯スポーツⅡ		1			

別表第1-1 経営学部経営学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考	
			必修	選択			
基盤教育科目	リベラルアーツ	人間の理解	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ 倫理と社会生活 人権と法	2 2	2 2	必修科目含み4 単位以上	
		社会と生活	近現代の歴史 日本国憲法 国際社会と政治 社会階層と文化		2 2 2 2		選択必修 2単位以上
		科学と生活	環境と生活 データサイエンス 生命と倫理 情報と社会		2 2 2 2		
		グローバルスタディ	グローバルスタディⅠ グローバルスタディⅡ グローバルスタディⅢ 地域研究(北米圏) 地域研究(アジア圏) 日本事情 日本文化論		1 2 3 2 2 2		※ ※ ※
		コミュニティスタディ	サービスラーニングA サービスラーニングB 地域防災減災論 災害と安全 ボランティア論		1 2 2 2 2		※ ※
		特別研究	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ		1 2 3 4		
		課題研究	課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 課題研究Ⅲ 課題研究Ⅳ		4 8 12 16		

ただし、専門教育科目、基盤教育科目および選択としての上記以外の科目を合わせて、126単位以上を修得しなければならない。

※を付した科目から2単位以上を修得しなければならない。

同表に定めるほか、グローバルスタディ及びコミュニティスタディ科目の履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

KUISオナーズプログラムの履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

別表第1-2 人間科学部人間心理学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
		必修	選択		
専 門 教 育 科 目	基 礎 科	心理学入門	4		} 10単位
	心理学概論	4			
	統計学Ⅰ	2			
	基 幹 科 目	心理学研究法	4		} 20単位以上
		心理学実験		4	
		臨床心理学概論		4	
		司法・犯罪心理学		4	
		スポーツ心理学		4	
		社会学概論		2	
		教育学概論		2	
		犯罪学概論		2	
		社会福祉概論		2	
		健康・医療心理学		2	
		教育・学校心理学		2	
		発達心理学		2	
		学習・言語心理学		2	
		知覚・認知心理学		2	
		社会・集団・家族心理学		2	
		精神疾患とその治療		2	
		社会調査論Ⅰ		2	
		社会調査論Ⅱ		2	
		心理学統計法		2	
		コミュニケーション演習		2	
	産業・組織心理学		4		
	公認心理師の職責		2		
	障害者(児)心理学		2		
	展 開 科 目	環境心理学		2	} 46単位以上
		神経・生理心理学		2	
		災害心理学		2	
		心理演習		4	
		心理学的支援法		4	
		感情・人格心理学		2	
		心理的アセスメント		4	
教育相談			2		
福祉心理学			2		
人体の構造と機能及び疾病			2		
関係行政論			2		
心理実習			3		
犯罪関連法論			4		
捜査心理学			2		
犯罪・災害報道論			2		
スポーツ社会学			2		
スポーツ科学		4			
生涯スポーツ論		2			

別表第1-2 人間科学部人間心理学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
		必修	選択		
専 門 展 開 教 育 科 目	メンタルトレーニング		2		
	応用犯罪心理学		2		
	顧客満足論		2		
	スポーツコーチング論		2		
	スポーツコーチング実習		1		
	現代社会論		2		
	現代家族論		2		
	教育社会学		2		
	統計学Ⅱ		2		
	データ解析		2		
	質的調査法		2		
	社会調査演習		4		
	外書講読		2		
	近代社会論		2		
	法律学概論		2		
	日本文化史		2		
	日本史概説		2		
	外国史概説		2		
	地理学		2		
	人文地理		2		
	経済学		2		
	国際経済論		2		
	マーケティング		4		
	障害者教育総論		2		
	障害児教育論		2		
	障害児教育課程論		2		
	知的障害教育総論		2		
	知的障害者の自立活動の理論と実際		2		
	知的障害者の心理		2		
	知的障害者の生理・病理		2		
	知的障害教育Ⅰ		2		
	知的障害教育Ⅱ		2		
知的障害者の言語障害指導		2			
知的障害児における情報機器等の活用と指導		2			
重複障害・LD等教育総論		2			
教育実習(特別支援学校)		3			
国際防災協力		2			
セーフティマネジメント論		2			
防災教育		2			
コミュニティ防災		2			
復興論		2			
ファシリテーション演習		2			

別表第1-2 人間科学部人間心理学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
			必修	選択		
専門教育科目	総合演習	専門演習Ⅰ	2		必修12単位	※ ※ ※
		専門演習Ⅱ	2			
		専門演習Ⅲ	2			
		専門演習Ⅳ	2			
		卒業研究	4			
		インターンシップⅠ		1		
		インターンシップⅡ		2		
		インターンシップⅢ		4		
基盤教育科目	ベ ー シ ッ ク ス	評価と実践Ⅰ	1		必修10単位	
		評価と実践Ⅱ	1			
		リーダーシップ演習		1		
		仕事とキャリア形成Ⅰ	2			
		仕事とキャリア形成Ⅱ	2			
		初年次セミナー	1			
		基礎演習	1			
		学習技術	1			
		リサーチ入門	1			
		第1外国語	基礎英語			
	総合英語Ⅰ			2		
	総合英語Ⅱ			2		
	オーラルイングリッシュⅠ			1		
	オーラルイングリッシュⅡ			1		
	オーラルイングリッシュⅢ			1		
	インテンシブイングリッシュⅠ			1		
	インテンシブイングリッシュⅡ			1		
	英語Ⅰ			4		
	英語Ⅱ			4		
	英語Ⅲ			4		
	英語Ⅳ			4		
	第2外国語	中国語Ⅰ		2		
		中国語Ⅱ		2		
		韓国・朝鮮語Ⅰ		2		
		韓国・朝鮮語Ⅱ		2		
		マレー語		1		
		インドネシア語		1		
	留学生対象	日本語Ⅰ		2	選択必修10単位以上 日本語能力試験N1の 合格者は10単位中2 単位を認定、8単位履 修	
		日本語Ⅱ		2		
		日本語Ⅲ		2		
		日本語Ⅳ		2		
		日本語Ⅴ		2		
アカデミック日本語Ⅰ			1			
アカデミック日本語Ⅱ			1			
日本語ライティングⅠ			1			
日本語ライティングⅡ			1			
ビジネス日本語Ⅰ			1			
ビジネス日本語Ⅱ			1			
専門日本語Ⅰ			1			
専門日本語Ⅱ		1				
情報	ICTリテラシー	2		必修科目含み2 単位以上		
	ICT活用A		2			
	ICT活用B		2			
	ICT活用C		2			
健康とスポーツ	生涯スポーツⅠ		1			
	生涯スポーツⅡ		1			

別表第1-2 人間科学部人間心理学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目		単位数		卒業要件単位数	備 考	
			必修	選択			
基盤教育科目	リベラルアーツ	人間の理解	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	2 2		必修科目含み 6単位以上	
			倫理と社会生活 教育と人間形成 比較宗教論 人権と法		2 2 2 2		
		社会と生活	近現代の歴史 社会階層と文化 国際社会と政治 日本国憲法		2 2 2 2		選択必修 2単位以上
		科学と生活	データサイエンス 環境と生活 生命と倫理 情報と社会 食と健康		2 2 2 2 2		
		グローバルスタディ	グローバルスタディⅠ グローバルスタディⅡ グローバルスタディⅢ 地域研究(北米圏) 地域研究(アジア圏) 日本事情 日本文化論		1 2 3 2 2 2		※ ※ ※
		コミュニティ	サービスラーニングA サービスラーニングB ボランティア論 災害と安全 地域防災減災論		1 2 2 2 2	※ ※	
		特別研究	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ		1 2 3 4		
		課題研究	課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 課題研究Ⅲ 課題研究Ⅳ		4 8 12 16		

ただし、専門教育科目、基盤教育科目および選択としての上記以外の科目を合わせて、126 単位以上を修得しなければならない。

※を付した科目から2単位以上を修得しなければならない。

同表に定めるほか、グローバルスタディ及びコミュニティスタディ科目の履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

KUISオナーズプログラムの履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

別表第1-3 教育学部教育福祉学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
			必修	選択		
専 門 教 育 科 目	基 礎 科 目	教育学概論	2		} 6単位	
		心理学概論 I	2			
		社会学概論	2			
	基 幹 科 目	統計学 I		2	} 20単位以上	
		臨床心理学 I		2		
		発達心理学		2		
		教育心理学		2		
		公教育論		2		
		児童家庭福祉		2		
		教育相談		2		
		社会福祉概論 I		2		
		社会福祉概論 II		2		
		障害者福祉論		2		
		老人福祉論		4		
		社会保障論		4		
		社会福祉援助技術論 I		4		
		保育原理		2		
		社会的養護		2		
		保育内容総論		1		
		保育内容・健康		1		
		保育内容・人間関係		1		
		保育内容・環境		1		
		保育内容・言葉		1		
		保育内容・表現 I		1		
		保育内容・表現 II		1		
		幼児教育方法論		2		
		保育者論		2		
		初等国語科教育法		2		
		初等社会科教育法		2		
		初等算数科教育法		2		
		初等理科教育法		2		
		初等生活科教育法		2		
		初等音楽科教育法		2		
		初等図画工作科教育法		2		
初等家庭科教育法		2				
初等体育科教育法		2				
幼児理解と教職課程		2				
生徒指導論		2				
教職概論		2				
教職特論		2				

別表第1-3 教育学部教育福祉学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
			必修	選択		
専 門 教 育 科 目	展 開 科 目	精神保健学		2		
		医学一般		2		
		こども発達学		2		
		教育社会学		2		
		子どもの保健Ⅰ		2		
		子どもの保健Ⅱ		1		
		社会福祉基礎		2		
		地域福祉論		2		
		公的扶助論		2		
		介護概論		2		
		社会調査論Ⅰ		2		
		社会福祉援助技術論Ⅱ		4		
		社会福祉援助技術論Ⅲ		4		
		相談援助		1		
		相談援助演習Ⅰ		2		
		相談援助演習Ⅱ		2		
		相談援助演習Ⅲ		2		
		相談援助実習指導Ⅰ		2		
		相談援助実習指導Ⅱ		2		
		相談援助実習指導Ⅲ		2		
		社会福祉援助技術現場実習		4		
		福祉行財政と福祉計画		2		
		福祉サービスの組織と経営		2		
		保健医療サービス		2		
		就労支援サービス		2		
		更生保護制度		2		
		権利擁護と成年後見制度		2		
		子どもの食と栄養		2		
		家庭支援論		2		
		乳児保育Ⅰ		2		
		乳児保育Ⅱ		1		
		障害児保育Ⅰ		1		
		障害児保育Ⅱ		1		
		社会的養護内容		1		
		体育指導Ⅰ		1		
		体育指導Ⅱ		1		
		造形Ⅰ		1		
		造形Ⅱ		1		
		音楽Ⅰ・器楽		1		
		音楽Ⅱ・器楽		1		
音楽Ⅲ・伴奏法		1				
音楽Ⅳ・器楽		1				
音楽Ⅴ・声楽及び理論		1				
音楽Ⅵ・器楽及び指導法		1				
音楽Ⅶ・器楽		1				
音楽Ⅷ・器楽		1				
言語表現技術		1				

別表第1-3 教育学部教育福祉学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
			必修	選択		
専 門 展 開 教 育 科 目	展 開 科 目	保育実習Ⅰ事前事後指導①		1	48単位以上	
		保育実習Ⅰ事前事後指導②		1		
		保育実習Ⅱ事前事後指導		1		
		保育実習Ⅲ事前事後指導		1		
		保育実習Ⅰ(保育所)		2		
		保育実習Ⅰ(施設)		2		
		保育実習Ⅱ		2		
		保育実習Ⅲ		2		
		幼児指導法		2		
		保育実践観察法		1		
		子どもの家庭支援の心理学		2		
		保育心理学演習		1		
		初等学校経営論		2		
		教育制度論		2		
		初等教育方法論		2		
		初等教育課程論		2		
		道徳教育の指導法		2		
		初等英語教育研究		2		
		インターンシップⅠ		2		
		インターンシップⅡ		2		
		インターンシップⅢ		2		
		特別活動の指導法		2		
		ボランティア実習		2		
		保育課程論		2		
		初等情報機器活用論		2		
		図画工作Ⅰ		1		
		図画工作Ⅱ		1		
		体育講義		2		
		国語Ⅰ		2		
		国語Ⅱ		2		
		社会Ⅰ		2		
		社会Ⅱ		2		
		算数Ⅰ		2		
		算数Ⅱ		2		
理科Ⅰ		2				
理科Ⅱ		2				
生活		2				
家庭		2				
幼稚園教育実習Ⅰ		2				
幼稚園教育実習Ⅱ		2				
幼稚園教育実習事前事後指導		1				
小学校教育実習Ⅰ		2				
小学校教育実習Ⅱ		2				
教育実習事前事後指導		1				

別表第1-3 教育学部教育福祉学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考
		必修	選択		
専 門 教 育 科 目	教職実践演習(幼)		2		
	教職実践演習(小)		2		
	福祉科教育法Ⅰ		2		
	福祉科教育法Ⅱ		2		
	障害者教育総論		2		
	知的障害者の言語障害指導		2		
	知的障害者の自立活動の理論と実際		2		
	知的障害児における情報機器等の活用と指導		2		
	知的障害教育総論		2		
	障害児教育論		2		
	教育実習(特別支援学校)		3		
	知的障害者の心理・生理・病理		2		
	肢体不自由者の心理・生理・病理		2		
	病弱者の心理・生理・病理		2		
	知的障害教育		2		
	肢体不自由教育		2		
	病弱教育		2		
	肢体不自由教育総論		2		
	病弱教育総論		2		
	重複障害教育総論		2		
	LD等教育総論		2		
	聴覚障害・視覚障害教育総論		2		
	スクールソーシャルワーク論		2		
	スクールソーシャルワーク演習		1		
	スクールソーシャルワーク実習指導		1		
	スクールソーシャルワーク実習		2		
	英語発音クリニック		2		
	児童英語		2		
	板書技術		2		
	防災教育		2		
	特別支援教育総論		2		
	総合的な学習の時間の指導法		1		
	外国語		2		
外国語の指導法		2			
総 合 演 習	専門演習Ⅰ	2	}	必修12単位	
	専門演習Ⅱ	2			
	専門演習Ⅲ	2			
	専門演習Ⅳ	2			
	卒業研究	4			

別表第1-3 教育学部教育福祉学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目		単位数		卒業要件単位数	備 考	
			必修	選択			
基盤教育科目	ベーシックスキ K U I S	評価と実践Ⅰ	1		必修10単位		
		評価と実践Ⅱ	1				
		リーダーシップ演習		1			
		仕事とキャリア形成Ⅰ	2				
		仕事とキャリア形成Ⅱ	2				
		初年次セミナー	1				
		基礎演習	1				
		学習技術	1				
		リサーチ入門	1				
	コモンベ ーシ ック ス	第1外国語	基礎英語		2	選択必修 7単位以上 (第1外国語か ら5単位以上) (留学生は選択 科目)	
			総合英語Ⅰ		2		
			総合英語Ⅱ		2		
			オーラルイングリッシュⅠ		1		
			オーラルイングリッシュⅡ		1		
			オーラルイングリッシュⅢ		1		
			インテンシブイングリッシュⅠ		1		
インテンシブイングリッシュⅡ				1			
英語Ⅰ				4			
英語Ⅱ			4				
英語Ⅲ			4				
英語Ⅳ			4				
第2外国語		中国語Ⅰ		2			
		中国語Ⅱ		2			
		韓国・朝鮮語Ⅰ		2			
		韓国・朝鮮語Ⅱ		2			
		マレー語		1			
	インドネシア語		1				
留 学 生 対 象	日本語Ⅰ		2	選択必修10単位 以上 日本語能力試験 N1の合格者は10 単位中2単位を認 定、8単位履修			
	日本語Ⅱ		2				
	日本語Ⅲ		2				
	日本語Ⅳ		2				
	日本語Ⅴ		2				
	アカデミック日本語Ⅰ		1				
	アカデミック日本語Ⅱ		1				
	日本語ライティングⅠ		1				
	日本語ライティングⅡ		1				
	ビジネス日本語Ⅰ		1				
	ビジネス日本語Ⅱ		1				
	専門日本語Ⅰ		1				
	専門日本語Ⅱ		1				
	情 報	ICTリテラシー	2			必修科目含 み2単位以上	
ICT活用A			2				
ICT活用B			2				
ICT活用C			2				
健 康 と ス ポ ー ツ	生涯スポーツⅠ		1				
	生涯スポーツⅡ		1				

別表第1-3 教育学部教育福祉学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目		単位数		卒業要件単位数	備 考	
			必修	選択			
基盤教育科目	リベラルアーツ	人間の理解	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ 倫理と社会生活 教育と人間形成 比較宗教論 人権と法	2 2	2 2 2 2	必修科目含み 6単位以上	
		社会と生活	近現代の歴史 社会階層と文化 国際社会と政治 日本国憲法		2 2 2		選択必修 2単位以上
		科学と生活	データサイエンス 環境と生活 生命と倫理 情報と社会 食と健康		2 2 2 2	選択必修 2単位以上	
		グローバルスタディ	グローバルスタディⅠ グローバルスタディⅡ グローバルスタディⅢ 地域研究(北米圏) 地域研究(アジア圏) 日本事情 日本文化論		1 2 3 2 2 2		選択必修 1単位以上
		コミュニティスタディ	サービスラーニングA サービスラーニングB ボランティア論 災害と安全 地域防災減災論		1 2 2 2	選択必修 1単位以上 (専門科目の該当科目を含む)	
		特別研究	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ		1 2 3 4		
		課題研究	課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 課題研究Ⅲ 課題研究Ⅳ		4 8 12 16		

ただし、専門教育科目、基盤教育科目および選択としての上記以外の科目を合わせて、126 単位以上を修得しなければならない。

同表に定めるほか、グローバルスタディ及びコミュニティスタディ科目の履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

KUISオナーズプログラムの履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

別表第1-4 国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科

授業科目 の区分等	授業科目	単位数		卒業要件単位数	備考	
		必修	選択			
専 門 教 育 科 目	英語基礎1		2	} 必修16単位 選択必修4単位以上		
	リーディング1		2			
	ライティング1		2			
	オーラル・コミュニケーション1		2			
	英語基礎2		2			
	リーディング2		2			
	ライティング2		2			
	オーラル・コミュニケーション2		2			
	英語総合1	2				
	リーディング総合1	2				
	ライティング総合1	2				
	アドバンスト・コミュニケーション1	2				
	英語総合2	2				
	リーディング総合2	2				
	ライティング総合2	2				
	アドバンスト・コミュニケーション2	2				
	アカデミック英語		2			
	グローバル事情		2			
	総合英語Ⅰ		2			
	総合英語Ⅱ		2			
	総合英語Ⅲ		2			
	総合英語Ⅳ		2			
	インテンシブイングリッシュⅠ		1			
	インテンシブイングリッシュⅡ		1			
	インテンシブイングリッシュⅢ		1			
	基 幹 科 目	異文化理解	2			} 必修6単位 選択必修4単位以上
		経済学基礎	2			
		国際関係	2			
		アジア研究		2		
		日本研究		2		
言語と文化			2			
文化人類学			2			
経営学概論			4			
展 開 科 目	課題研究(グローバルリサーチ)	16			GS科目	
	日本のポップカルチャー		2			
	日本文学		2			
	経済学概論		4			
	マーケティング		4			
	ファイナンス		4			
	実践ビジネス英語Ⅰ		2			
	実践ビジネス英語Ⅱ		2			
	ビジネスプレゼンテーション		2			
	ホスピタリティマネジメント		4			
	ビジネスマナー		2			
	航空実務		4			
	ホテル実務		4			
	ツーリズム事情Ⅰ		2			
ツーリズム事情Ⅱ		2				

別表第1-4 国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数		備 考	
			必修	選択				
専 門 教 育 科 目	展 開 科 目	ボランティア実習		2	}		自由科目	
		英文法研究		2				
		英語発音クリニック		2				
		児童英語		2				
		社会学概論		2				
		国際経済論		2				
		アジアマーケティング論		2				
		ビジネス統計学		4				
		国際通商法		2				
		国際経営論		2				
		インバウンドツーリズム産業論		2				
	総 合 演 習	専門演習Ⅰ	2		}	必修10単位		
		専門演習Ⅱ	2					
		専門演習Ⅲ	2					
卒業研究		4						
基 盤 教 育 科 目	ベ ー ク ー シ ー ク ス	評価と実践Ⅰ	1		}	必修8単位		
		評価と実践Ⅱ	1					
		リーダーシップ演習		1				
		仕事とキャリア形成Ⅰ	2					
		仕事とキャリア形成Ⅱ		2				
		初年次セミナー	1					
		基礎演習	1					
		学習技術	1					
		リサーチ入門	1					
	コ モ ン ベ ー シ ー ク ス	第 2 外 国 語	中国語Ⅰ		2			
			中国語Ⅱ		2			
			韓国・朝鮮語Ⅰ		2			
			韓国・朝鮮語Ⅱ		2			
			マレー語		1			
インドネシア語				1				
留 学 生 対 象			日本語Ⅰ		2			
		日本語Ⅱ		2				
		日本語Ⅲ		2				
		日本語Ⅳ		2				
		日本語Ⅴ		2				
		アカデミック日本語Ⅰ		1				
		アカデミック日本語Ⅱ		1				
		日本語ライティングⅠ		1				
日本語ライティングⅡ			1					
情 報	ビジネス日本語Ⅰ		1					
	ビジネス日本語Ⅱ		1					
	専門日本語Ⅰ		1					
ス ポ ー ツ と 健 康	ICTリテラシー		2					
	ICT活用A		2					
ス ポ ー ツ と 健 康	生涯スポーツⅠ		1					
	生涯スポーツⅡ		1					

別表第1-4 国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考	
		必修	選択			
基盤教育科目 リベラルアーツ	人間の理解	人間学Ⅰ	2	必修4単位		
		人間学Ⅱ	2			
		倫理と社会生活				2
		教育と人間形成				2
		比較宗教論				2
		人権と法				2
	社会と生活	近現代の歴史		2	選択必修2単位以上	各領域から 2単位以上
		社会階層と文化		2		
		国際社会と政治		2		
		日本国憲法		2		
	科学と生活	データサイエンス		2	選択必修2単位以上	
		環境と生活		2		
		生命と倫理		2		
		情報と社会		2		
		食と健康		2		
	グローバルスタ ディ	グローバルスタディⅠ		1	選択必修1単位以上	
		グローバルスタディⅡ		2		
		グローバルスタディⅢ		3		
		地域研究(北米圏)		2		
		地域研究(アジア圏)		2		
		日本事情		2		
日本文化論			2			
コミュニ ティスタ ディ	地域防災減災論		2	0単位(※2)		
	災害と安全		2			
	ボランティア論		2			
特別 研究	特別研究Ⅰ		1			
	特別研究Ⅱ		2			
	特別研究Ⅲ		3			
	特別研究Ⅳ		4			
課題 研究	課題研究Ⅰ		4			
	課題研究Ⅱ		8			
	課題研究Ⅲ		12			
	課題研究Ⅳ		16			

ただし、専門教育科目、基盤教育科目および選択としての上記以外の科目を合わせて、

126 単位以上を修得しなければならない。(自由科目を除く)

同表に定めるほか、グローバルスタディ及びコミュニティスタディ科目の履修及び修得単位等の詳細は別に
KUISオナーズプログラムの履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

(※1)リベラルアーツ科目群は「人間の理解」「社会と生活」「科学と生活」から各2単位以上取得すること。

(※2)コミュニティスタディは、展開科目のコミュニティスタディ科目群(サービスマーケティングⅠ・Ⅱ、インターン
シップⅠ・Ⅱ・Ⅲ)により1単位以上履修すること。

別表第1-5 保健医療学部看護学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考	
			必修	選択			
専門教育科目	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ(運動器・神経系)	2		}		
		形態機能学Ⅱ(循環器・内臓系)	2				
		生化学	1				
		薬理学	1				
		臨床栄養学	1				
		免疫学	1				
		病態学	1				
		疾病・治療論Ⅰ(内科系)	1				
		疾病・治療論Ⅱ(外科系)	1				
		疾病・治療論Ⅲ(精神/老年)	1				
		疾病・治療論Ⅳ(母性/小児)	1				
		多専門職連携医療論	1				
		遺伝学		1			}
		生物学基礎		1			
		化学基礎		1			
	心理学基礎		1				
		人間と環境	家族社会学		1	}	
			環境保健学	1			
			疫学	2			
			保健統計学	2			
			保健医療福祉行政論		1		
		基盤看護学	基礎看護学概論	2		}	
			基礎看護学方法論	2			
			基礎看護技術Ⅰ(生活援助)	1			
			基礎看護技術Ⅱ(治療援助)	1			
			基礎看護技術Ⅲ(看護過程)	1			
			セイフティマネジメント	1			
			看護マネジメント	1			
			基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)	1			
			基礎看護学実習Ⅱ(看護援助過程)	2			
		療養支援看護学	成人健康看護学概論	2		}	必修科目 含み102 単位以上
			急性・重症看護援助論	2			
			慢性看護援助論	2			
	がん看護援助論(含む終末期)		1				
	急性・慢性看護技術演習		1				
	急性看護学実習		3				
	慢性看護学実習		3				
	精神健康看護学概論		2				
	精神看護援助論		2				
	精神看護学実習	2					

別表第1-5 保健医療学部看護学科

授業科目 の区分等		授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数		備 考
			必修	選択			
専門教育科目	家族支援看護学	小児健康看護学概論	2		}	選 択 科 目 6 単	
		小児看護援助論	2				
		小児看護学実習	2				
		母性健康看護学概論	2				
		母性看護援助論	2				
		母性看護学実習	2				
		基礎助産学		2			
		助産診断技術学Ⅰ		2			
		助産診断技術学Ⅱ		4			
		助産管理		1			
		助産学実習		7			
		生活支援看護学	老年健康看護学概論	2			
	老年看護援助論		2				
	老年看護学実習		3				
	在宅看護学概論		2				
	在宅看護援助論		2				
	在宅看護学実習		1				
	公衆衛生看護学概論		2				
	個人・家族・集団・組織の支援活動論			2			
	公衆衛生看護活動展開演習			3			
	公衆衛生看護管理論			2			
	公衆衛生看護学実習		4				
	総合看護	代替療法看護論		1	}		
		災害看護論		1			
		国際看護論	1				
		看護研究方法	2				
		実践看護学特演		3			
統合看護実習		4					
卒業研究		4					

別表第1-5 保健医療学部看護学科

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	備 考		
		必修	選択				
基盤教育科目	ベ ー シ ン ク ス	評価と実践Ⅰ	1	}	必修 科目 含み4 単位 以上		
		評価と実践Ⅱ	1				
		リーダーシップ演習	1				
		初年次セミナー	1				
		学習技術	1				
		リサーチ入門	1				
	コ モ ン ベ ー シ ン ク ス	第 1 外 国 語	基礎英語	2	}	必修 科目 含み6 単位 以上	
			総合英語Ⅰ	2			
			総合英語Ⅱ	2			
			オーラルイングリッシュⅠ	1			
			オーラルイングリッシュⅡ	1			
			オーラルイングリッシュⅢ	1			
			インテンシブイングリッシュⅠ	1			
			インテンシブイングリッシュⅡ	1			
		第 2 外 国 語	中国語Ⅰ		2		
			中国語Ⅱ		2		
	韓国・朝鮮語Ⅰ			2			
	韓国・朝鮮語Ⅱ			2			
	情 報	ICTリテラシー		2			
		ICT活用A		2			
ICT活用B			2				
ICT活用C			2				
ポ ー ツ	健 康 と ス ポ ー ツ	生涯スポーツⅠ		1			
		生涯スポーツⅡ		1			
リ ベ ラ ル ア ー ツ	人 間 の 理 解	人間学Ⅰ	2	}	必修科 目含み4 単位以 上		
		人間学Ⅱ	2				
		倫理と社会生活				2	
		教育と人間形成				2	
		比較宗教論				2	
		人権と法		2			
	社 会 と 生 活	社 会 と 生 活	近現代の歴史		2	}	2単位以上
			社会階層と文化		2		
			国際社会と政治		2		
			日本国憲法		2		
	科 学 と 生 活	科 学 と 生 活	環境と生活		2	}	2単位以上
			生命と倫理		2		
			情報と社会		2		
食と健康				2			
グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ス	グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ス	グローバルスタディⅠ		1			
		グローバルスタディⅡ		2			
		グローバルスタディⅢ		3			
		地域研究(北米圏)		2			
		地域研究(アジア圏)		2			
		日本文化論		2			
テ コ ミ ニ タ リ	ボ ラ ン テ ィ ア 論	ボランティア論		1			
		災害と安全		2			
		地域防災減災論		2			

ただし、専門教育科目102単位以上、基盤教育科目18単位以上を修得し、その他6単位の計126 単位以上を修得しなければならない。

別表第2-1~11 削除

別表第2-12

教育の基礎的理解に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[中学校・社会]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	11	教育学概論		2		
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論		2		
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育社会学 学校経営論 教育制度論		2 2 2		} 1科目 } 以上 } 選択
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学 発達心理学	2		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育基礎		1		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)		教育課程論		2		

別表第2-12-2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[中学校・社会]

道徳の理論及び指導法	11	道徳教育の指導法		2		
総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法		1		
特別活動の指導法		特別活動の指導法		2		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論		2		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。の理論及び方法		教育相談		2		
生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論		2		
進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)						

別表第2-12-3

教育実践に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[中学校・社会]

教育実習	7	教育実習 I		5		
教職実践演習		教職実践演習(中・高)		2		

別表第2-13

教育の基礎的理解に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[高等学校・公民]

科目分野	最低修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	11	教育学概論		2		
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論		2		
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育社会学 学校経営論 教育制度論		2 2 2	} 1科目以上 選択
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学 発達心理学	2	2		
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育基礎		1		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)		教育課程論		2		

別表第2-13-2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[高等学校・公民]

総合的な学習の時間の指導法	9	総合的な学習の時間の指導法		1		
特別活動の指導法		特別活動の指導法		2		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論		2		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談		2		
生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論				
進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)				2		

別表第2-13-3

教育実践に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[高等学校・公民]

教育実習	5	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ		5 3	} 1科目以上 選択
教職実践演習		教職実践演習(中・高)		2	

別表第2-14

教科及び教科の指導法に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[中学校・社会]

科目分野	最低 履修 単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
日本史 及び 外国史	32	日本史概説 外国史概説 日本文化史	近代社会論	2 2 2	2	
地理学 (地誌を含む)		地理学 人文地理	地域民俗論	2 2	2	
法律学 政治学		法律学概論 国際社会と政治	人権と法	2 2	2	
社会学 経済学		社会学概論 経済学	現代社会論 現代家族論 国際経済論 マーケティング 犯罪学概論	2 2 2 2 2	2 2 2 4 2	
哲学 倫理学 宗教学		比較宗教論 倫理と社会生活	生命と倫理	2 2	2	
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)		社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会科・公民科教育法Ⅰ 社会科・公民科教育法Ⅱ		2 2 2 2		

別表第2-15

教科及び教科の指導法に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[高等学校・公民]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
法律学 (国際法を含む) 政治学 (国際政治を含む)	24	法律学概論 国際社会と政治	人権と法	2 2	2	
社会学、経済学 (国際経済を含む)		社会学概論	現代社会論 現代家族論	2 2	2 2	
		経済学 国際経済論	マーケティング 犯罪学概論	2 2	4 2	
		倫理と社会生活	生命と倫理	2	2	
哲学 倫理学 宗教学 心理学			心理学概論	4		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		社会科・公民科教育法Ⅰ		2		
		社会科・公民科教育法Ⅱ		2		

別表第2-16

大学が独自に設定する科目(人間科学部人間心理学科)

[中学校・社会]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
大学が独自に設定する科目	4		ボランティア論 ボランティア実習 教育と人間形成 災害と安全 地域防災減災論	2 2 2 2 2		

別表第2-12(教育の基礎的理解に関する科目)、別表第2-12-2(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)、別表第2-12-3(教育実践に関する科目)の27単位を超えて履修した科目及び別表第2-14(教科及び教科の指導法に関する科目)の28単位を超えて履修した科目と、本表の必修科目及び選択科目を併せて、4単位以上を履修しなければならない。

別表第2-17

大学が独自に設定する科目(人間科学部人間心理学科)

[高等学校・公民]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
大学が独自に設定する科目	12		ボランティア論 ボランティア実習 道徳教育の指導法 教育と人間形成 災害と安全 地域防災減災論		2 2 2 2 2 2	
別表第2-13(教育の基礎的理解に関する科目)、別表第2-13-2(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)、別表第2-13-3(教育実践に関する科目)の23単位を超えて履修した科目及び別表第2-15(教科及び教科の指導法に関する科目)の24単位を超えて履修した科目と、本表の必修科目及び選択科目を併せて、12単位以上を履修しなければならない。						

別表第2-18

教育職員免許状を取得するために必要なその他の科目(人間科学部人間心理学科)

[中学校・社会][高等学校・公民]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2		
体育	2	生涯スポーツⅠ		1		
		生涯スポーツⅡ		1		
外国語コミュニケーション	2		オーラルイングリッシュⅠ		1	
			オーラルイングリッシュⅡ		1	
			オーラルイングリッシュⅢ		1	
			基礎英語		2	
			総合英語Ⅰ		2	
			英語Ⅰ		4	
			英語Ⅱ		4	
			英語Ⅲ		4	
	英語Ⅳ		4			
情報機器の操作	2	ICTリテラシー		2		

別表第2-19~22 削除

別表第2-23

教育の基礎的理解に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[中学校・英語]

科目分野	最低修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	11	教育学概論		2		
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論		2		
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育社会学 学校経営論 教育制度論		2 2 2		} 1科目 以上 選択
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学		2 2		
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育基礎		1		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)		教育課程論		2		

別表第2-23-2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[中学校・英語]

道徳の理論及び指導法	11	道徳教育の指導法		2		
総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法		1		
特別活動の指導法		特別活動の指導法		2		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論		2		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談		2		
生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論				
進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)					2	

別表第2-23-3

教育実践に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[中学校・英語]

教育実習	7	教育実習 I		5		
教職実践演習		教職実践演習(中・高)		2		

別表第2-24

教育の基礎的理解に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[高等学校・英語]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	11	教育学概論		2		
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論		2		
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育社会学 学校経営論 教育制度論		2 2 2	} 1科目 以上 選択
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学		2	2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育基礎		1		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)		教育課程論		2		

別表第2-24-2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[高等学校・英語]

総合的な学習の時間の指導法	9	総合的な学習の時間の指導法		1		
特別活動の指導法		特別活動の指導法		2		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論		2		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談		2		
生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論				
進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)				2		

別表第2-24-3

教育実践に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[高等学校・英語]

教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことができる。)	5	教育実習Ⅰ		5	} 1科目以上 選択
		教育実習Ⅱ		3	
教職実践演習		教職実践演習(中・高)		2	

別表第2-25

教科及び教科の指導法に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[中学校・英語]

科目分野	最低 履修 単位数	本学開講の関連科目・単位数				
		必修科目	選択科目	単位数		備考
				必修	選択	
英語学	28	英語音声学		2		
		英語学Ⅰ		2		
		英語学Ⅱ		2		
英語文学		英米文学概論		2		
英語コミュニケーション		英語総合1		2		
		リーディング総合1		2		
		ライティング総合1		2		
		アドバンスト・コミュニケーション1		2		
異文化理解		異文化理解		2		
		言語と文化		2		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)		英語科教育法Ⅰ		2		
		英語科教育法Ⅱ		2		
		英語科教育法Ⅲ		2		
		英語科教育法Ⅳ		2		

別表第2-26

教科及び教科の指導法に関する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[高等学校・英語]

科目分野	最低 履修 単位数	本学開講の関連科目・単位数				
		必修科目	選択科目	単位数		備考
				必修	選択	
英語学	28	英語音声学		2		
		英語学Ⅰ		2		
		英語学Ⅱ		2		
英語文学		英米文学概論		2		
英語コミュニケーション		英語総合1		2		
		リーディング総合1		2		
		ライティング総合1		2		
		アドバンスト・コミュニケーション1		2		
異文化理解		異文化理解		2		
		言語と文化		2		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)		英語科教育法Ⅰ		2		
		英語科教育法Ⅱ		2		
		英語科教育法Ⅲ		2		
		英語科教育法Ⅳ		2		

別表第2-27

大学が独自に設定する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[中学校・英語]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
大学が独自に設定する科目	4		ボランティア論 ボランティア実習 教育と人間形成 災害と安全 地域防災減災論	2	2 2 2 2	
別表第2-23(教育の基礎的理解に関する科目)、別表第2-23-2(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)、別表第2-23-3(教育実践に関する科目)の27単位を超えて履修した科目及び別表第2-25(教科及び教科の指導法に関する科目)の28単位を超えて履修した科目と、本表の必修科目及び選択科目を併せて、4単位以上を履修しなければならない。						

別表第2-28

大学が独自に設定する科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[高等学校・英語]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
大学が独自に設定する科目	12		ボランティア論 ボランティア実習 道徳教育の指導法 教育と人間形成 災害と安全 地域防災減災論		2 2 2 2 2 2	
別表第2-24(教育の基礎的理解に関する科目)、別表第2-24-2(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)、別表第2-24-3(教育実践に関する科目)の23単位を超えて履修した科目及び別表第2-26(教科及び教科の指導法に関する科目)の24単位を超えて履修した科目と、本表の必修科目及び選択科目を併せて、12単位以上を履修しなければならない。						

別表第2-29

教育職員免許状を取得するために必要なその他の科目(国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)

[中学校・英語][高等学校・英語]

科目分野	最低 履修 単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2		
体育	2	生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ		1 1		
外国語コミュニケーション	2		オーラルイングリッシュⅠ オーラルイングリッシュⅡ オーラルイングリッシュⅢ 基礎英語 総合英語Ⅰ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ		1 1 1 2 2 4 4 4 4	
情報機器の操作	2	ICTリテラシー		2		

別表第2-30

教育の基礎的理解に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[幼稚園教諭]

科目分野	最低 履修 単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	16	教育学概論	公教育論	2	2	
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論	教職特論	2	2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			初等学校経営論 教育制度論		2 2	} 1科目 以上選択
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学	こども発達学	2 2	2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育総論		2		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)		初等教育課程論 保育課程論		2 2		

別表第2-30-2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[幼稚園教諭]

教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	6	幼児教育方法論		2	
幼児理解の理論及び方法		初等教育方法論 (情報機器の操作含む)	2		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		幼児理解	2		
		教育相談	2		

別表第2-30-3

教育実践に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[幼稚園教諭]

教育実習	7	幼稚園教育実習 I 幼稚園教育実習 II 幼稚園教育実習事前事後指導	2 2 1	2	
教職実践演習		教職実践演習(幼)	2		

別表第2-31

領域及び保育内容の指導法に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[幼稚園教諭]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
国語	16		国語 I 国語 II		2 2	
算数			算数 I 算数 II		2 2	
生活			生活		2	
音楽		音楽 I・器楽 音楽 II・器楽	音楽 III・伴奏法	1 1	1	
図画工作		造形 I	造形 II 図画工作 I 図画工作 II	1	1 1 1	
体育		体育指導 I 体育指導 II		1 1		
保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		幼児指導法			2	
		保育内容総論		1		
		保育内容・健康		1		
		保育内容・人間関係		1		
		保育内容・環境		1		
		保育内容・言葉		1		
		保育内容・表現 I 保育内容・表現 II		1 1		

別表第2-32

大学が独自に設定する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)
[幼稚園教諭]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
大学が独自に設定する科目	14		ボランティア論 ボランティア実習 道德教育の指導法 心理学概論Ⅰ 社会学概論 教育と人間形成 災害と安全 地域防災減災論 防災教育 障害児保育Ⅰ 障害児保育Ⅱ 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 社会的養護内容 保育相談支援 社会的養護		2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 2	
別表第2-30(教育の基礎的理解に関する科目)、別表第2-30-2(道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)、別表第2-30-3(教育実践に関する科目)の21単位を超えて履修した科目及び別表第2-31(領域及び保育内容の指導法に関する科目)の16単位を超えて履修した科目と、本表の必修科目及び選択科目を併せて、14単位以上を履修しなければならない。						

別表第2-33

教育職員免許状を取得するために必要なその他の科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[幼稚園教諭]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2		
体育	2		体育講義 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ		2 1 1	
外国語コミュニケーション	2		オーラルイングリッシュⅠ オーラルイングリッシュⅡ オーラルイングリッシュⅢ 基礎英語 総合英語Ⅰ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ		1 1 1 2 2 4 4 4 4	
情報機器の操作	2		初等情報機器活用論 ICTリテラシー		2 2	

別表第2-34

教育の基礎的理解に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[小学校教諭]

科目分野	最低修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	14	教育学概論	公教育論	2	2	
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論	教職特論	2	2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			初等学校経営論 教育制度論		2 2	} 1科目 以上選択
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学	こども発達学	2 2	2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育総論		2		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)		初等教育課程論		2		

別表第2-34-2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[小学校]

道徳の理論及び指導法	11	道徳教育の指導法		2		
総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法		1		
特別活動の指導法		特別活動の指導法		2		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		初等教育方法論		2		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談		2		
生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論				
進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論および方法を含む)			2			

別表第2-34-3

教育実践に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[小学校]

教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことが出来る。)	7	小学校教育実習Ⅰ 小学校教育実習Ⅱ 教育実習事前事後指導		2	2	
教職実践演習		教職実践演習(小)		1		
				2		

別表第2-35

教科及び教科の指導法に関する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[小学校教諭]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
国語	30	国語Ⅰ (書写含む)	国語Ⅱ	2	2	
社会			社会Ⅰ 社会Ⅱ		2 2	
算数		算数Ⅰ	算数Ⅱ	2	2	
理科			理科Ⅰ 理科Ⅱ		2 2	
生活			生活		2	
音楽		音楽Ⅰ・器楽 音楽Ⅱ・器楽	音楽Ⅲ・伴奏法	1 1	1	
図画工作		造形Ⅰ	造形Ⅱ 図画工作Ⅰ 図画工作Ⅱ	1	1 1 1	
家庭			家庭		2	
体育		体育指導Ⅰ 体育指導Ⅱ		1 1		
外国語		外国語		2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		初等国語科教育法 (書写含む) 初等社会科教育法 初等算数科教育法 初等理科教育法 初等音楽科教育法 初等図画工作科教育法 初等家庭科教育法 初等体育科教育法 外国語の指導法	初等生活科教育法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2	

別表第2-36

大学が独自に設定する科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[小学校教諭]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
大学が独自に設定する科目	2		ボランティア論 ボランティア実習 社会学概論 心理学概論Ⅰ 教育と人間形成 災害と安全 防災教育 地域防災減災論		2 2 2 2 2 2 2 2	
別表第2-34(教育の基礎的理解に関する科目)、別表第2-34-2(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)、別表第2-34-3(教育実践に関する科目)の27単位を超えて履修した科目及び別表第2-35(教科及び教科の指導法に関する科目)の30単位を超えて履修した科目と、本表の必修科目及び選択科目を併せて、2単位以上を履修しなければならない。						

別表第2-37

教育職員免許状を取得するために必要なその他の科目(教育学部教育福祉学科 こども学専攻)

[小学校教諭]

科目分野	最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2		
体育	2		体育講義 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ		2 1 1	
外国語コミュニケーション	2		オーラルイングリッシュⅠ オーラルイングリッシュⅡ オーラルイングリッシュⅢ 基礎英語 総合英語Ⅰ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ		1 1 1 2 2 4 4 4 4	
情報機器の操作	2		初等情報機器活用論 ICTリテラシー		2 2	

別表第2-38

特別支援教育に関する科目(人間科学部人間心理学科)

[特別支援学校教諭・知的障害者の教育に関する領域]

科目分野	最低 履修 単位数	本学開講の関連科目・単位数				備考
		必修科目	選択科目	単位数		
				必修	選択	
特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	障害者教育総論		2		
特別支援教育領域に関する科目	4	知的障害者の心理		2		
		知的障害者の生理・病理		2		
	10	知的障害教育 I		2		
		知的障害教育 II		2		
知的障害者の言語障害指導 知的障害者の自立活動の理論と実際 知的障害児における情報機器等の活用と指導			2 2 2			
特別支援教育領域に関する科目	2	知的障害教育総論		2		
		知的障害教育総論		2		
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	4	障害児教育課程論		2		
		障害児教育論 重複障害・LD等教育総論		2 2		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	教育実習(特別支援学校)		3		

別表第2-39

特別支援教育に関する科目(教育学部教育福祉学科)

[特別支援学校教諭・知的障害者、肢体不自由、病弱者の教育に関する領域]

科目分野		最低履修単位数	本学開講の関連科目・単位数				
			必修科目	選択科目	単位数		備考
					必修	選択	
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	障害者教育総論		2		
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	知的障害者の心理・生理・病理		2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		肢体不自由者の心理・生理・病理		2		
			病弱者の心理・生理・病理		2		
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	16	知的障害教育	知的障害者の言語障害指導	2	2	1科目選択必修
			肢体不自由教育	知的障害者の自立活動の理論と実際		2	
				病弱教育	知的障害児における情報機器等の活用と指導	2	
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	16		知的障害教育総論		2	1科目選択必修
				肢体不自由教育総論		2	
				病弱教育総論		2	
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	6	聴覚障害・視覚障害教育総論		2		
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	6	重複障害教育総論	障害児教育論		2	
			LD等教育総論		2		
					2		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	教育実習(特別支援学校)		3		

別表第3

費目 学部・学科		入学 検定料	学 費			
			入学金	授業料 (年額)	教育改善費 (年額)	教材費 (年額)
経営学部	経営学科	円 35,000	円 300,000	円 857,000	円 262,000	円 40,000
人間科学部	人間心理学科	35,000	300,000	857,000	262,000	40,000
教育学部	教育福祉学科	35,000	300,000	857,000	262,000	40,000
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	35,000	300,000	857,000	262,000	40,000
保健医療学部	看護学科	35,000	300,000	1,278,000	262,000	40,000

学則の変更事項を記載した書類

1. 変更の事由及び変更点

(1) 学則本文の改正

保健医療学部看護学科における入学定員及び収容定員増加に伴い、学則第 3 条を変更。

(2) 施行日

2020 年（令和 2 年）4 月 1 日とする。

関西国際大学学則変更案新旧対照表

新	旧																																																																													
<p>第1条 ～ 第2条 第3条</p> <p style="text-align: center;">(省略)</p> <p>第3条 本学において設置する学部・学科・専攻及びその学生定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学 科</th> <th>入学定員</th> <th>編入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営学部</td> <td>経営学科</td> <td>100人</td> <td>20人</td> <td>440人</td> </tr> <tr> <td>人間科 学部</td> <td>人間心理学科</td> <td>125人</td> <td>—</td> <td>500人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育学部</td> <td>教育福祉学科</td> <td>150人</td> <td>—</td> <td>600人</td> </tr> <tr> <td>福祉学専攻</td> <td>30人</td> <td>—</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>こども学専攻</td> <td>120人</td> <td>—</td> <td>480人</td> </tr> <tr> <td>国際コミュニケーション学部</td> <td>英語コミュニケーション学科</td> <td>50人</td> <td>—</td> <td>200人</td> </tr> <tr> <td>保健医療学部</td> <td>看護学科</td> <td>100人</td> <td>—</td> <td>400人</td> </tr> </tbody> </table> <p>第4条 ～ 第58条</p> <p style="text-align: center;">(省略)</p>	学部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員	経営学部	経営学科	100人	20人	440人	人間科 学部	人間心理学科	125人	—	500人	教育学部	教育福祉学科	150人	—	600人	福祉学専攻	30人	—	120人	こども学専攻	120人	—	480人	国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50人	—	200人	保健医療学部	看護学科	100人	—	400人	<p>第1条 ～ 第2条 第3条</p> <p style="text-align: center;">(省略)</p> <p>第3条 本学において設置する学部・学科・専攻及びその学生定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学 科</th> <th>入学定員</th> <th>編入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営学部</td> <td>経営学科</td> <td>100人</td> <td>20人</td> <td>440人</td> </tr> <tr> <td>人間科 学部</td> <td>人間心理学科</td> <td>125人</td> <td>—</td> <td>500人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育学部</td> <td>教育福祉学科</td> <td>150人</td> <td>—</td> <td>600人</td> </tr> <tr> <td>福祉学専攻</td> <td>30人</td> <td>—</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>こども学専攻</td> <td>120人</td> <td>—</td> <td>480人</td> </tr> <tr> <td>国際コミュニケーション学部</td> <td>英語コミュニケーション学科</td> <td>50人</td> <td>—</td> <td>200人</td> </tr> <tr> <td>保健医療学部</td> <td>看護学科</td> <td>80人</td> <td>—</td> <td>320人</td> </tr> </tbody> </table> <p>第4条 ～ 第58条</p> <p style="text-align: center;">(省略)</p>	学部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員	経営学部	経営学科	100人	20人	440人	人間科 学部	人間心理学科	125人	—	500人	教育学部	教育福祉学科	150人	—	600人	福祉学専攻	30人	—	120人	こども学専攻	120人	—	480人	国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50人	—	200人	保健医療学部	看護学科	80人	—	320人	<p>備考</p> <p>保健医療学部における収容定員増加による変更</p>
学部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員																																																																										
経営学部	経営学科	100人	20人	440人																																																																										
人間科 学部	人間心理学科	125人	—	500人																																																																										
教育学部	教育福祉学科	150人	—	600人																																																																										
	福祉学専攻	30人	—	120人																																																																										
	こども学専攻	120人	—	480人																																																																										
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50人	—	200人																																																																										
保健医療学部	看護学科	100人	—	400人																																																																										
学部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員																																																																										
経営学部	経営学科	100人	20人	440人																																																																										
人間科 学部	人間心理学科	125人	—	500人																																																																										
教育学部	教育福祉学科	150人	—	600人																																																																										
	福祉学専攻	30人	—	120人																																																																										
	こども学専攻	120人	—	480人																																																																										
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	50人	—	200人																																																																										
保健医療学部	看護学科	80人	—	320人																																																																										

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定による人間科学部経営学科、人間心理学科、教育学部教育福祉学科、英語教育学科、保健医療学部看護学科、経営学部経営学科、国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の、令和2年度から令和5年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	年 度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人間科学部	経営学科	240人	120人	0人
	人間心理学科	500人	500人	500人
教育学部	教育福祉学科	600人	600人	600人
	英語教育学科	100人	50人	0人
保健医療学部	看護学科	340人	360人	400人
経営学部	経営学科	200人	320人	440人
国際コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	100人	150人	0人

別表 (省略)

(省略)

附 則 の 追 加

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更の内容

関西国際大学保健医療学部看護学科の収容定員を、次のとおり変更する。

学部学科	現行		変更後	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
保健医療学部看護学科	80	320	100	400

イ. 学則変更の必要性

関西国際大学の設立母体である学校法人濱名学院は、以愛為園（愛を以て園と為す）の精神で発展してきた。「愛」とは相互愛であり、人との関わりは、相互に愛と信頼があっ
てはじめて成立するものである。関西国際大学はこの精神を生かし、地球上の人々それぞれの立場を理解し、共に歩む、人間愛にあふれた人の育成をめざしている。それは単に国際社会で活躍できる人間であることにとどまらず、世界中の人々と痛みを分かち合い、問題を解決していく実行力のある人間こそが、本学が求めている人間像である。このような精神を具現化したものとして、本学の教育理念を、

自律できる人間であろう

自己に厳しく、たえず努力し続ける人間になろう。

社会に貢献できる人間であろう

自ら創造し、積極的に行動する人間になろう。

心豊かな世界市民であろう

世界の人々と共に生き、互いを高めうる人間になろう。

としている。

本学は、1998年（平成10年）に4年制男女共学として開学し、経営学部を開設。2001年（平成13年）に人間学部を開設。2005年（平成17年）大学院人間行動学研究科を開設。2007年（平成19年）教育学部及び人間科学部を、2013年（平成25年）に保健医療学部看護学科、2015年（平成27年）には大学院看護学研究科を開設している。

保健医療学部看護学科の開設については、三木市および2013年（平成25年）に開設した北播磨総合医療センターの設置母体である北播磨総合医療センター企業団からの看護専門職者育成機関の開設要請によるところが大きい。本学三木キャンパスが立地する三木市及び隣接する小野市の其々の市民病院を移転・統合し、高度医療に対応する北播磨総合医

療センター（450床）が新設（2013年（平成25年）10月開設）されることを受け、本学は三木市にある高等教育機関として、三木市及び北播磨総合医療センターの設置母体である同センター企業団より、看護専門職者育成機関の開設に関する要請を受けた。本学はこうした地域の要請に応えると共に、看護専門職者の不足が地域社会で問題視されている状況を鑑み、高度な医療と地域保健を支える看護力量を備えた看護師・保健師・助産師の育成を主たる目的とする保健医療学部看護学科の開設を計画し、2013年4月に開設した。

設置の経緯から、保健医療学部看護学科においては、地域医療に携わる看護職者の育成を図っているが、その期待と人材への需要は開設時から高く、現状においても多くの求人がある。北播磨総合医療センターには、同センター奨学金受給者を中心に毎年十五人程度の卒業生を看護専門職者として送り出しているが、同センターからはさらに多くの看護専門職人材の送り出しの可能性について打診されている

一方、看護学科への志願者においても、兵庫県内で看護学科の増設が続いているにもかかわらず、北播磨地域ばかりでなく広く県内を中心に、入学定員の3倍以上の志願者を集め続け、この3年はさらに増加傾向にある。合格者に対する入学者の手続き率も年々上昇している。これらは、高い国家試験合格率（2018年2月実施の看護師及び助産師の合格率は100%）をはじめとして、看護学科の教育の実績に対しての評価と期待が高まっていることを示している。

本学では、看護学科の実績に基づくこうした地域医療機関と志願者の期待に応えるべく、現行入学定員80人の制約の中で、専任教員数や教育・実習施設整備の状況としては十分可能なことから、現実的な対応として、入学定員の1.1倍を目途に合格者を発表し、入学者を受け入れてきた。しかしながら、2018年度入学者は本学の想定を超えて増加した結果、当初予定していた看護学研究科博士後期課程にかかる認可申請案件を見送らざるを得なくなったことなど、今般の「定員管理の厳格化」の下では、そうしたいわば便宜的な対応を続けるには限界が来ている。したがってこの際、看護学科への地域医療機関と志願者の期待に応えるべく、収容定員増を図ることとしたい。

なお、この収容定員増は、今般の「定員管理の厳格化」とそれに伴う私学助成の取り扱いに本学として適切に対応し、経営基盤の安定化をはかることにも資するものである。

ウ．学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

このたびの収容定員変更にとまなう教育課程、教育方法及び履修指導方法の変更は行わない。なお、保健医療学部看護学科では、学位授与の方針及び教育課程編成の方針を以下のとおり定めており、その中で教育内容を表している。

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と看護学の専門的知識・技術・態度を修得し、科学的思考に基づいたヒューマンケアを実践できる看護専門職を育成します。その実現のために、KUIS学修ベンチマークで定めている教育目標に対して、以下の力・資質を備えた人物に学位を授与します。

(1) 自律的で主体的な態度（自律性）

看護職を目指す者として、主体的に学修計画を立て、必要に応じて修正しながら実行することができる。

(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）

他職種役割を理解し、看護職としての責任ある行動をとることができる。

(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）

看護の対象者が持つ背景や価値観の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができる。

(4) 問題発見・解決力

看護における課題の解決に必要な知識及び資源を活用して、立案した計画を実施できる。

(5) コミュニケーションスキル

対象者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを論理的に整理して伝える工夫をすることができる。

(6) 専門的知識・技能の活用力

看護における現象を、習得した知識と技術を用いて説明し、個別性に合わせて活用することができる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能などを修得させるために、基盤教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、大学全体として、さまざまな分野で求められている「安全で安心」な組織をマネジメントする力を養うための教育を行います。

本学科における基盤教育は、「大学卒業後まで見通した生き方の基盤（教養）を学ばせる」という意味と「大学の教育での学びの基盤となるべきスキルなどを学ばせる」という2つの意味を持っており、それを実現する教育課程の編成となっています。

専門教育については、看護学専攻、看護グローバル専攻ともに1年次から3年次に専門教育科目を開講し、4年次には統合看護実習、卒業研究において段階的に学習する科目編

成となっています。さらに看護グローバル専攻においては、3年次冬学期の海外研修と事前事後の学修を含む科目を開講し、異文化対応能力の向上を目指します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号を付するナンバリングを行い、カリキュラムの履修の優先度や体系性を示します。

教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。

1 教育内容

(1) 基盤教育科目では、本学科がディプロマ・ポリシーで掲げている自律性、社会的貢献性、多様性理解を深めていくために、「人間学」を中心とした教養教育としての科目群と、高校からの円滑な移行を図り、学修および人格的な成長を実現するための科目群（初年次教育）と、大学教育で必要とされるスキル（語学、ICT、スポーツ）を学ぶ科目群が配当しています。

(2) 学生一人ひとりが、受け身的に評価を受けるだけでなく、「評価」を理解し、自己評価能力を高めていき、評価材料を蓄積していくために「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を必修科目として1年次から4年次に渡って配当しています。さらに同科目において学生自身が将来を見越した4年間の計画を立て、主体的に自己評価ができるようにします。

(3) 専門教育科目では、看護学で求められる知識・技能の獲得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて分野別に体系的・順序性を考えて配置します。1年次には、医学、社会学、心理学などにより人を心身の両面から理解し、さらに基礎看護学の講義、演習、実習を通して看護の基礎的知識、技術を習得する。2年次には、領域別の看護学の講義、演習を配置し、3年次には領域別実習において、大学で学修した知識（専門知）と実習で得た知識（経験知）の繋がりを理解し、実践できるようにします。

(4) 4年次の卒業研究および統合看護実習を必修とし、専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。

(5) 看護師課程の国家試験受験資格の取得に必要な科目を1年次から体系的・系統的に配置しており、助産師課程および保健師課程については3年次に履修登録されたものがそれぞれの国家試験受験資格の取得に必要な科目の履修を3年次、4年次に行います。

2 教育方法

(1) 主体的な学びの力を高めるために、グループワークやプレゼンテーションなどを中心としたアクティブラーニングを取り入れた教育方法を、専門教育科目を中心に実施します。

(2) 専門教育科目においては、アサインメントやレポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性を図り、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。

(3) 臨地実習は、問題解決学習（PBL）を用いて、指導教員および臨地実習指導者から助言を受けながら学修を深めます。また、小グループでのグループ学修により他者の意見も尊重しながら学修を発展させ、看護学で学んだ専門知識を活用した問題発見・解決方法の修得をはかります。

(4) 国家試験受験資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの導入及びeラーニングによる自己学習の推進や結果のモニタリングを行います。また学科教員による模擬試験・国家試験対策のための時間を開設し、1年次から段階を追ったプログラムを実施します。

(5) 目標・記録・評価の総合的ツールであるeポートフォリオを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」（リフレクション）を行い、自らの経験と身に付けたものを情報発信できる方法を身に付けます。

(6) 卒業までに修得すべき汎用的能力を測るために、学期末に KUIS 学修ベンチマークや専門科目の達成度について、学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、振り返りと改善を行います。

3 教育評価

(1) 2年生終了時には、それまでの専門教育科目の水準を修得し、上級学年の専門教育を履修する基礎的知識が修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格のものには再試験を課し、それに合格することを求めます。

(2) 各学年・学期には専門科目を配置しており、各段階実習にはそれまでの専門科目の単位取得がないと履修できない要件を設けています。

(3) 4年間の学修成果は、統合看護実習および卒業研究によって評価ルーブリック・到達目標の到達度で総括的評価を行います。

(ウ) 教員組織の変更内容

このたびの収容定員変更は、実態として大きく入学者数の増加を図るものではなく、大きな教員組織の変更は行わない。保健医療学部看護学科における教員配置は、学部認可時点（2012年10月）における専任教員数27人から、2019年4月には専任教員数を30人と増加させるとともに、各分野において助手を配置することで実習における負担の軽減を図っており、今回の収容定員増においても十分な教育水準を維持できると考えている。

今後も教員の年齢構成、職位等の適正化を図りつつ、教員組織を充実させていく予定としている。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

このたびの収容定員変更にもなう施設・設備の変更は行わない。保健医療学部看護学科においては、既に100名の入学者に合わせ、専用となる看護学実習棟（校舎面積3,177.28㎡）及び、教具・校具・備品の整備を行っている。

〔看護学実習棟概要〕（保健医療学部看護学科専用）	
校舎面積	3,177.28㎡
演習室	収容100名規模 1室
	収容50名規模 3室
	収容10名規模 10室
実習準備室	4室
研究室	共同研究室 2室
他	スキルスラボ 1室
	カンファレンス室（6人対応） 6室
	倉庫 2室
	ロッカールーム 2室（男性用、女性用）

教育課程等の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
KUISベ リック	初年次教育	評価と実践Ⅰ	1~2年	1				○	1	4	3	2			
		評価と実践Ⅱ	2~4年	1				○	1	4	3	2			
		リーダーシップ演習	1年冬		1			○						兼1	
		初年次セミナー	1年春	1				○		1	1				
		学習技術	1年秋	1				○		1	1				
		リサーチ入門	1年春		1			○						兼1	
コ モ ン ベ ー シ ッ ク ス	第1外国語	基礎英語	1年春	2				○						兼3	
		総合英語Ⅰ	1年秋	2				○						兼3	
		総合英語Ⅱ	2年春	2				○						兼3	
		オーラルイングリッシュⅠ	1年秋		1			○						兼1	
		オーラルイングリッシュⅡ	2年春秋		1			○						兼1	
		オーラルイングリッシュⅢ	2年春秋		1			○						兼1	
		インテンシブイングリッシュⅠ	1年夏		1			○						兼1	
		インテンシブイングリッシュⅡ	1年冬		1			○						兼1	
	外国語 (第2外国語 その他の 外国語)	中国語Ⅰ	1年春		2				○						兼1
		中国語Ⅱ	1年秋		2				○						兼1
		韓国・朝鮮語Ⅰ	1年春		2				○						兼1
		韓国・朝鮮語Ⅱ	1年秋		2				○						兼1
	情報	ICTリテラシー	1年春		2				○						兼2
		ICT活用A	1年春秋		2				○						兼1
ICT活用B		2年秋		2				○						兼1	
ICT活用C		2年夏冬		2				○						兼1	
健康と スポーツ	生涯スポーツⅠ	1年春		1				○						兼1	
	生涯スポーツⅡ	1年秋		1				○						兼1	
小計(24科目)				10	25	0		—						兼27	
リ ベ ラ ル ア ー ツ	人間の 理解	人間学Ⅰ	1年春	2				○						兼3	
		人間学Ⅱ	1年秋	2				○						兼3	
		倫理と社会生活(倫理学)	1年秋		2				○					兼1	
		教育と人間形成(教育学)	1年秋		2				○					兼1	
		比較宗教論(宗教学)	1年春		2				○					兼1	
		人権と法	1年秋		2				○					兼1	
	社会と 生活	近現代の歴史(歴史学)	1年春		2				○						兼1
		社会階層と文化(社会学)	1年秋		2				○					兼1	
		国際社会と政治(政治学)	1年秋		2				○					兼1	
		日本国憲法	1年春		2				○					兼1	
	科学と 生活	環境と生活(環境学)	1年秋		2				○						兼1
		生命と倫理(倫理学)	1年秋		2				○					兼1	
		情報と社会(情報学)	1年春		2				○					兼1	
		食と健康(栄養学)	1年春		2				○					兼1	
小計(14科目)				4	24	0		—						兼18	
グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ス タ	グローバルスタディⅠ	3年冬		1				○	1						
	グローバルスタディⅡ	3年夏		2				○						兼1	
	グローバルスタディⅢ	3年夏		3				○						兼1	
	地域研究(北米圏)	1年春		2				○						兼1	
	地域研究(アジア圏)	1年秋		2				○						兼1	
	日本文化論(日本文化)	1年春		2				○						兼1	
	ボランティア論(地域社会)	1年秋		2				○						兼1	
デ ィ ス タ ィ ユ	災害と安全(危機管理)	1年冬		2				○						兼1	
	地域防災減災論	1年冬		2				○						兼1	
	小計(9科目)				0	18	0		—	0	0	0	0	0	兼8
計(47科目)				14	67	0		—						兼52	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人間と健康	形態機能学Ⅰ(運動器・神経系)	1年春	2			○									兼1
		形態機能学Ⅱ(循環器・内臓系)	1年春	2			○									兼1
		生化学	1年春	1			○									兼1
		薬理学	1年春	1			○									兼1
		臨床栄養学	1年秋	1			○									兼1
		免疫学	1年春	1			○									兼1
		病態学	1年秋	1			○									兼1
		疾病・治療論Ⅰ(内科系)	1年秋	1			○									兼1
		疾病・治療論Ⅱ(外科系)	1年秋	1			○									兼1
		疾病・治療論Ⅲ(精神/老年)	1年秋	1			○									兼2
		疾病・治療論Ⅳ(母性/小児)	1年秋	1			○									兼2
		多専門職連携医療論	3年春	1			○									兼1
		遺伝学	1年秋		1		○									兼1
		生物学基礎	1年春		1		○									兼1
	化学基礎	1年春		1		○									兼1	
	心理学基礎	1年春		1		○									兼1	
	人間と環境	家族社会学	2年春		1		○									兼1
		環境保健学	1年秋	1			○									兼1
		疫学	1年秋	2			○									兼1
		保健統計学	1年秋	2			○									兼1
		保健医療福祉行政論	3年春		2		○									兼1
小計(21科目)			19	7	0		—		0	0	0	0	0		兼23	
専門教育科目	基礎看護学	基礎看護学概論	1年春	2			○			1						
		基礎看護学方法論	1年秋	2			○			1		1	2			
		基礎看護技術Ⅰ(生活援助)	1年秋	1			○			1		1	2			
		基礎看護技術Ⅱ(治療援助)	1年秋	1			○			1		1	2			
		基礎看護技術Ⅲ(看護過程)	2年春	1			○			1		1	2			
		セイフティマネジメント	3年秋	1			○									兼1
		看護マネジメント	3年秋	1			○									兼1
		基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)	1年夏	1					○	1		1	2			
		基礎看護学実習Ⅱ(看護援助過程)	2年秋	2					○	1		1	2			
	療養支援看護学	成人健康看護学概論	2年春	2			○			2						
		急性・重症看護援助論	2年春	2			○			1	1		1			
		慢性看護援助論	2年春	2			○			1	1	1				
		がん看護援助論(含む終末期)	2年秋	1			○			1						
		急性・慢性看護技術演習	2年秋	1			○			2	2					
		急性看護学実習	3年通	3					○	1	1		1			
		慢性看護学実習	3年通	3					○	1	1	1				
		精神健康看護学概論	2年春	2			○				1					
		精神看護援助論	2年秋	2				○			1	1	1			
	精神看護学実習	3年通	2				○			1	1	1				
	家族支援看護学	小児健康看護学概論	2年春	2			○			1						
		小児看護援助論	2年秋	2				○		1		2				
		小児看護学実習	3年通	2				○		1		2	1			
		母性健康看護学概論	2年春	2			○			1						
		母性看護援助論	2年秋	2				○		2	1					
		母性看護学実習	3年通	2				○		2	1					
		基礎助産学	2年秋		2		○			1						
		助産診断技術学Ⅰ	3年冬		2			○		1		1				
助産診断技術学Ⅱ		4年春		4			○		1		1					
助産管理	3年秋		1			○		1		1						
助産学実習	4年通		7				○	1		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
生活支援看護学	老年健康看護学概論	2年春	2			○			1					
	老年看護援助論	2年秋	2				○		1	1	1			
	老年看護学実習	3年通	3					○	1	1	1			
	在宅看護学概論	2年春	2			○			1		1			
	在宅看護援助論	2年秋	2				○		1		1			
	在宅看護学実習	3年通	1					○	1		1			
	公衆衛生看護学概論	2年春	2			○			2		1			
	個人・家族・集団・組織の支援活動論	3年冬		2		○			2		1			
	公衆衛生看護活動展開演習	4年春		3			○		2		1			
	公衆衛生看護管理論	4年春		2			○		2		1			
	公衆衛生看護学実習	4年通		4				○	2		1			
専門教育科目	総合看護	代替療法看護論	4年春		1		○							兼1
		災害看護論	4年春		1		○							兼1
		国際看護論	2年秋	1			○			1				
		看護研究方法	4年春	2			○			1				
		実践看護学特演	4年通		3			○						
		統合看護実習	4年春	4					○	10	6	8	6	
		卒業研究	4年通	4					○	10	6	8	6	
小計(49科目)			69	32	0	—			10	6	8	6	兼5	
計(70科目)			88	39	0	—			10	6	8	6	兼28	
合計(117科目)			102	106	0	—								
学位または称号		学士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>卒業要件としては、共通教育科目と専門教育科目を合わせて126単位の取得を必要としている。その履修方法とそれに伴う要件単位は、以下の通りである。</p> <p>【基盤教育科目】 「初年次教育」科目区分の4科目(評価実践Ⅰ、評価と実践Ⅱ、初年次セミナー、学習技術(各1単位))は、必須科目として履修する。「第1外国語」の科目区分からは、基礎英語、総合英語Ⅰ、総合英語Ⅱ(各2単位)を必須科目として6単位を履修する。「人間学総合教育科目」の科目区分からは、人間学Ⅰ、人間学Ⅱ(各2単位)を必須科目として履修するほか、「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の各科目区分から最低1科目2単位以上を履修する。 上記の履修により、基盤教育科目から合計18単位を最低の修得単位数とする。</p> <p>【専門教育科目】 「専門基礎科目」科目区分より必修科目19単位及び選択必修科目を14単位の計33単位、「専門科目」科目区分より69単位を必修科目として履修する。専門教育科目から、合計102単位を最低の修得単位数とする。上述の科目以外の選択科目より、計6単位以上の選択科目を履修する。 基盤教育科目と専門教育科目を合わせて合計126単位以上を修得することとする。 (履修科目の登録の上限 原則 22単位(1学期))</p>						1学年の学期区分		4期						
						1学期の授業期間		春学期(16週) 夏学期(8週) 秋学期(16週) 冬学期(8週)						
						1時限の授業時間		90分						

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P1
① 学生の確保の見通し	P1
ア 定員充足の見込み	P1
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	P1
ウ 学生納付金の設定の考え方	P4
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	P4
(2) 人材需要の動向等社会の要請	P6
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P6
② 社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	P7

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

以下の理由から変更後においても入学定員の充足は可能であると考えている。

1) 過去5年間の入学志願状況

保健医療学部看護学科の過去6年間の入学志願状況は志願倍率が3倍を超えており(表1)、今回の収容定員増加によって入学定員は100人となるが、過去の志願者数はこれを上回っている。また、本学保健医療学部看護学科設置は、地元の三木市及び北播磨総合医療センターからの看護師育成の要請を受けたものによるが、その設置の経緯及び目的から、兵庫県北播磨地域からの学生確保は重要であると考えている。その点においても、安定的な志願者数及び入学者が得られている(表2)。

2) 競合校の状況

保健医療学部看護学科の学生募集エリアについては、入試における志願者の高校所在地別志願者数から、兵庫県内の高等学校からの志願者数が全体の8割を超えていることがわかる(表3)。そのため、同じ兵庫県内の看護系学部等を設置する大学が競合校となることが推察される。兵庫県内の各大学において看護系学部を設置する大学は15校となっており、1993年の兵庫県立大学における開設以来増加の傾向にあるが(表4)、2018年度の入学者選抜において、各大学における入学定員を超過する入学者数となっている(表5)。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(表1) 保健医療学部看護学科志願者数と入学者数推移(2013年度～2018年度)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	356	391	262	260	287	326
合格者数	130	135	149	142	137	156
入学者数	104	94	91	92	89	119
入学定員 超過率	1.30	1.18	1.14	1.15	1.11	1.48

【資料1：保健医療学部看護学科志願者数と入学者数推移(2013年度～2018年度)より】

(資料1)は2013年4月に開設した保健医療学部看護学科の入学志願者及び入学者数の推移を表したものである。これまでの志願者数は、2015年度に志願者数が減少したが、入学定員の3倍以上を維持している状況にある。2015年度の志願者数の減少については、近隣の2大学が看護系学部を設置したことの影響が大きい。その後、2016年度にも近隣の1大学が看護系学部を設置したが、2017年度には志願者数の増加傾向がみられるなど、今後も十分な定員充足が見込むことができる。

(表2) 兵庫県北播磨地域高校からの志願者数及び入学者推移 (2015年度～2018年度)

年度	2015	2016	2017	2018
志願者数	64	79	68	84
入学者数	32	33	30	34

【資料2：兵庫県北播磨地域高校からの志願者数及び入学者推移 (2015年度～2018年度)より】

保健医療学部看護学科設置の目的は、兵庫県北播磨地域へ看護専門職者を輩出することにある。その目的のために、兵庫県北播磨地域に所在する高等学校からの志願者及び入学者について重視している。(表2)は、2015年度～2018年度の保健医療学部看護学科の入試において、当該地域の高校からの志願者数は60人を超え、入学生も30人を超えている。地元からの志願者を一定数確保できていることは、入学定員充足において重要であり、今後も重点的な学生募集活動を行っていく。

(表3) 保健医療学部看護学科の高校所在都道府県別志願者数 (2018年度入試)

都道府県	人数	割合
兵庫県	267	81.9%
その他	59	18.1%
計	326	-

【資料3：保健医療学部看護学科の高校所在都道府県別志願者数 (2018年度入試)より】

(表4) 兵庫県内国公私立大学における看護系学部等設置状況 (2018年4月現在)

	区分	学校名	学部	学科	所在地	開設年度
1	公立	兵庫県立大学	看護	看護	明石市	1993
2	国立	神戸大学	医	保健 (看護学専攻)	神戸市	1995
3	公立	神戸市看護大学	看護	看護	神戸市	1996
4	私立	園田学園女子大学	人間健康	人間看護	尼崎市	2006
5	私立	関西福祉大学	看護	看護	赤穂市	2006

	区分	学校名	学部	学科	所在地	開設年度
6	私立	兵庫大学	健康科	看護	加古川市	2006
7	私立	関西看護医療大学	看護	看護	淡路市	2006
8	私立	甲南女子大学	看護リハビリ	看護	神戸市	2007
9	私立	兵庫医療大学	看護	看護	神戸市	2007
10	私立	姫路大学	看護	看護	姫路市	2007
11	私立	神戸常盤大学	看護	看護	神戸市	2008
12	私立	関西国際大学	保健医療	看護	三木市	2013
13	私立	武庫川女子大学	看護	看護	西宮市	2015
14	私立	神戸女子大学	看護	看護	神戸市	2015
15	私立	姫路獨協大学	看護	看護	姫路市	2016

【資料4：兵庫県内国公立大学における看護系学部等設置状況（2018年4月現在）より】

（表3）は2018年度入試における関西国際大学保健医療学部看護学科の高校所在地別志願者の数であるが、兵庫県内からの志願者数が80%を超えており、兵庫県内からの志願者が多くなっていることがわかる。また表4は兵庫県内の看護系学部を設置する大学の一覧であるが、国立1校、公立2校、私立大学12校の計15校が設置されている。関西国際大学保健医療学部看護学科への志願者の多くが兵庫県内からの志願者であることを鑑みると、同県内の他大学が競合となっていることが推察される。

（表5）2018年度入試における兵庫県内私立大学看護系学部入学者の状況

区分	学校名	学部	学科	入学定員	入学者数	入学定員 超過率
私立	園田学園女子大学	人間健康	人間看護	80	90	1.12
私立	関西福祉大学	看護	看護	85	107	1.25
私立	兵庫大学	健康科	看護	90	103	1.14
私立	関西看護医療大学	看護	看護	90	105	1.16
私立	甲南女子大学	看護リハビリ	看護	100	107	1.07
私立	兵庫医療大学	看護	看護	80	104	1.30
私立	姫路大学	看護	看護	100	102	1.02
私立	神戸常盤大学	看護	看護	75	91	1.21
私立	関西国際大学	保健医療	看護	80	119	1.48
私立	武庫川女子大学	看護	看護	80	90	1.12
私立	神戸女子大学	看護	看護	80	88	1.1
私立	姫路獨協大学	看護	看護	80	76	0.95

※旺文社 大学の真の実力情報公開 2018年度版 及び 各大学のホームページより

【資料5：2018年度入試における兵庫県内私立大学看護系学部入学者の状況】

(表5)は2018年度入試における兵庫県内私立大学看護系学部入学者の状況である。本学と競合にある兵庫県内の各大学において、一校を除き入学定員充足率が100%を超えており、兵庫県内における看護系学部に対する進学需要は高い状況にある。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

保健医療学部看護学科の学費については、地元市等から財政支援及び協力を得ていることや、兵庫県内では後発となる設置であることを考慮し、低い学費設定としている(表6)。

(表6) 兵庫県内看護系学部等学費一覧

区分	学校名	学部	学科	初年度納入金(円)
私立	兵庫大学	看護	看護	1,969,370
私立	姫路獨協大学	看護	看護	1,953,300
私立	園田学園女子大学	人間健康	人間看護	1,950,000
私立	神戸常盤大学	保健科学	看護	1,943,000
私立	兵庫医療大学	看護	看護	1,925,000
私立	武庫川女子大学	看護	看護	1,914,700
私立	神戸女子大学	看護	看護	1,905,000
私立	関西看護医療大学	看護	看護	1,900,000
私立	甲南女子大学	看護リハビリ	看護	1,895,700
私立	姫路大学	看護	看護	1,895,000
私立	関西福祉大学	看護	看護	1,858,750
私立	関西国際大学	保健医療	看護	1,800,000

※旺文社 大学の真の実力情報公開 2019年度版 より

【資料6：兵庫県内看護系学部等学費一覧】

②学生確保に向けた具体的な取組状況

保健医療学部看護学科については、地元の三木市及び北播磨総合医療センター企業団からの看護師育成の要請を受け、北播磨総合医療センターへの看護師の育成はもとより、地域医療に貢献する看護専門職者の育成を目的として設置した。その観点から、特に兵庫県北播磨地域における看護師を目指す高校生が、本学保健医療学部看護学科を志願するための取組を行っている。その他の周辺地域からも、学生を確保するために、様々な学生募集活動を行っている。

1) 北播磨総合医療センター奨学金の設立

独自の奨学金として、北播磨総合医療センター奨学金を設立しており、当該奨学金を受給し入学する学生は毎年10名を超えている（表7）。

★北播磨総合医療センター奨学金概要

奨学金の目的	北播磨総合医療センターに看護師として就業し、地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、かつ成績優秀な学生に対する経済的支援を目的とした、北播磨総合医療センターからの支援をもとに運営する奨学金制度。
貸与対象	卒業後すぐに北播磨総合医療センターに看護師として就業する強い意志がある成績優秀者
貸与金額及び人数	第Ⅰ種 150万円／年 各学年 2名 第Ⅱ種 60万円／年 各学年 11名

（表7）入学者における北播磨総合医療センター奨学金受給者推移（2013-2018）

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
I種	2	2	2	2	2	2
II種	11	9	8	12	11	11
計	13	11	10	14	13	13

【資料7：兵庫県内看護系学部等学費一覧】

2) その他具体的な学生募集活動

(i) 高校教員への情報発信強化

安定的な学生確保のためには、高校教員における本学への信頼関係が重要であると認識し、保健医療学部看護学科に関しては、兵庫県北播磨地域の高校を中心とした高校教員への情報発信を強化している。主な方法としては、高校訪問を年に3回行うとともに、高校教員向け説明会の開催も行っている。

(ii) 受験媒体及びホームページ強化における高校生向け情報発信強化

本学のホームページや大学案内の他、各種受験情報誌やWEB媒体などを通じて、保健医療学部看護学科の概要、教育の特色、教育内容、施設・設備、実習先などの、様々な情報を掲載し、受験志望者に情報を発信している。

(iii) オープンキャンパスの実施

オープンキャンパスを通じて、本学の特徴を高校生に実感してもらうことを学生募集活動の重点においている。2014年度のオープンキャンパスにおける高校生等の参加者数は

1,409人であったが、2017年度には1,940人となるなど、年々多くの高校生に直接本学のPRを行うことができています（表8）。

（表8）オープンキャンパス参加者数推移

年度	オープンキャンパス参加者数推移		
	高校生等	保護者	計
2014	1,409	612	2,021
2015	1,853	831	2,684
2016	2,063	851	2,914
2017	1,940	903	2,843

【資料8：オープンキャンパス参加者数推移】

（2）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1）保健医療学部看護学科開設の経緯と目的

健医療学部看護学科の設置に関しては、三木市および2013年（平成25年）開設の北播磨総合医療センターの設置母体である企業団からの看護専門職者育成機関の開設要請によるところが大きい。

本学三木キャンパスが立地する三木市及び隣接する小野市の其々の市民病院を移転・統合し、高度医療に対応する北播磨総合医療センター（450床）が新設（2013年（平成25年）10月）されることを受け、本学は三木市にある高等教育機関として、三木市及び北播磨総合医療センターの設置母体である同センター企業団より、看護専門職者育成機関の開設に関する要請を受けた。

本学はこうした地域の要請に応えると共に、看護専門職者の不足が地域社会で問題視されている状況を鑑み、高度な医療と地域保健を支える看護力量を備えた看護師・保健師・助産師の育成を主たる目的とする保健医療学部看護学科の開設を計画した。2011年（平成23年）4月12日に、三木市、北播磨総合医療センター企業団と本学の三者は、本学に地域医療に貢献できる優秀な看護人材を育成することを目的とする「関西国際大学保健医療学部看護学科設置等に関する協定書」を締結し、三者連携による看護専門職者の育成を目指すこととなった。

2）保健医療学部看護学科の教育理念

看護学は実践の科学であり、看護専門職者には、時代のニーズに対応し時代の変化と向き合い、人々の生活の質向上のために、対象者・利用者自身が主体的に健康課題に取り組

み、自立を促すための指導力と実践力が求められている。そのために看護専門職者は自らの主体性に努め、人々に寄り添う姿勢と課題解決のための能力を強化する必要がある。課題解決に取り組むには、多様な現象の本質を見極め、因果関係の根拠を明らかにするための理論や科学性、客観性などの知識が必要である。人に寄り添う姿勢には、人間・命の尊厳と対象であるその人が置かれている状況や生活環境を理解するための幅広い知見と関心が求められる。

本学の設置母体である濱名学院の建学の精神「愛を以て、園と為す」は、看護学教育にもそのまま当てはまるものである。本学の看護学科における教育が目指す看護学は、「学びを、人への尊厳とともに他者に行為（看護）で示す」という人とその環境に対して、尊厳をもって受け入れ、最適な看護を実践し、貢献できる看護専門職者を育成することにある。

3) 教育研究目標

看護学教育には、看護課題に対応できる基礎的な知識、技術、態度を育成し、それらの能力を活用して、医療サービスにおけるあらゆる場で対象者・利用者の看護ニーズに対応できる応用力を育むことが求められている。

従って、看護学教育は、臨床における看護の専門的な知識・技術・態度に加えて、生活者や集団組織のニーズを捉え、人とのコミュニケーション能力とその場の事象に対処するための判断力と組織力などのチーム組織をマネジメントする技量、そして常に進展する医療の専門化・高度化に沿うための生涯学習の志向と態度の育成が必要である。

本学看護学科は、こうしたニーズに対応し、共通教育及び専門基礎教育を充実し実践する力量につなげるため、学生の自律と主体性の育成と同時に、コミュニケーション能力と問題解決能力の開発及び社会貢献に関する教育研究を進めている。

② 社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 社会的・地域的な人材需要の動向

社会的な看護人材需要の動向は、厚生労働省資料「第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書」（2010年12月22日）において、2025年度の看護職員の需要数は実人員ベースで約191万8千人から約199万7千人と推計されている。一方、供給数は2025（平成37）年において実人員ベースで約179万8千人と推計しており、中期的な看護職者の需給は供給不足となることが予測されている（資料9）。

地域における看護師需要については、公益社団法人日本看護協会中央ナースセンターにおける「ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人に関する分析報告書」において、各年度の都道府県別求人倍率が報告されており（表9）、いずれも高い数値を示している。

(表 9) 都道府県別看護師求人倍率

	2013	2014	2015	2016	2017
求人数	4,624	4,093	4,055	4828	5,288
求職者数	2,233	2,261	1,222	1160	1,212
求人倍率	2.07	1.81	3.31	4.16	4.36

公益社団法人日本看護協会中央ナースセンター「ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人に関する分析報告書」(2013～2017)

【資料 9 : 第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書 (抜粋)】

2) 保健医療学部看護学科の就職状況

2013年4月に開設した保健医療学部看護学科においては、2016年度に完成年度を迎え、初めての卒業生を輩出した。1期生及び2期生の求人状況については、本学に直接求人があっただけでも、卒業生1人あたりの求人倍率は2倍を超えており、高い数値となっている。

(表 10) 2016・2017年度の保健医療学部看護学科への求人倍率

年度	卒業生数	求人数	求人倍率
2016年度	98人	277件	2.8倍
2017年度	86人	303件	3.5倍

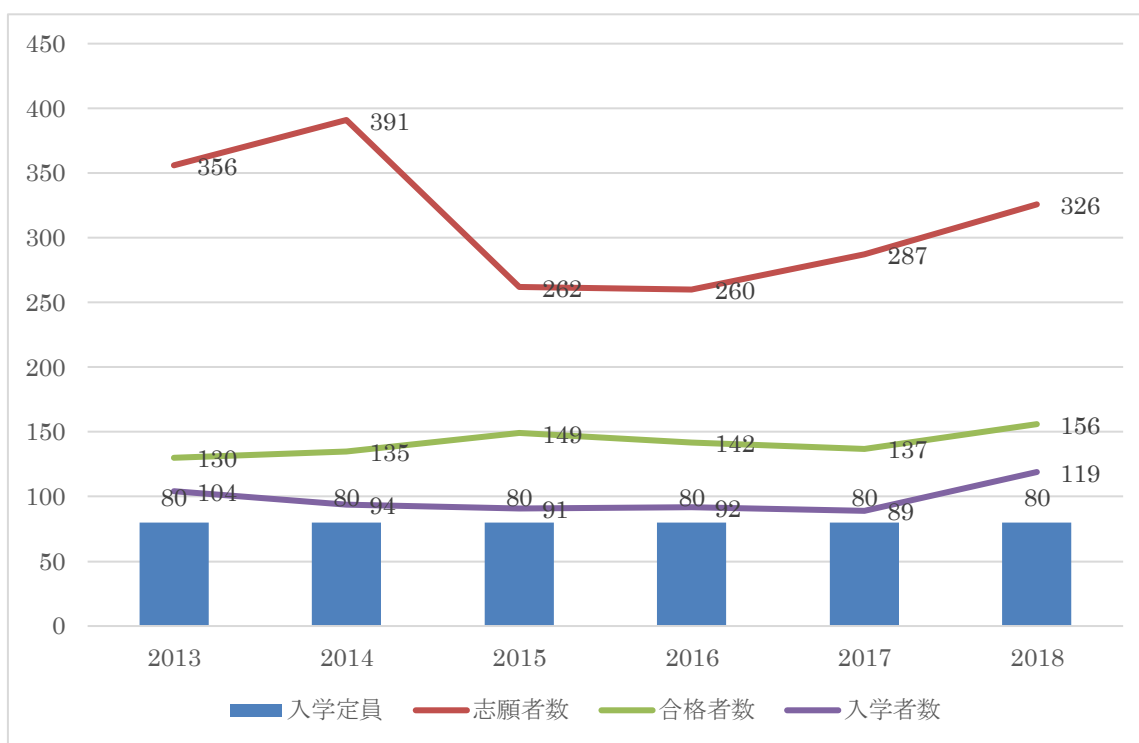
学生の確保の見通し等を記載した書類

資料 目次

- 資料 1 : 保健医療学部看護学科志願者数と入学者数推移 (2013～2018 年度)
- 資料 2 : 兵庫県北播磨地域高校からの志願者数及び入学者数推移 (2015～2018 年度)
- 資料 3 : 保健医療学部看護学科の高校所在都道府県別志願者数 (2018 年度入試)
- 資料 4 : 兵庫県内国公私立大学における看護系学部等設置状況 (2018 年 4 月現在)
- 資料 5 : 2018 年度入試における兵庫県内私立大学看護系学部入学者の状況
- 資料 6 : 兵庫県内看護系学部等学費一覧
- 資料 7 : 北播磨総合医療センター奨学金概要と貸与者推移
- 資料 8 : オープンキャンパス参加者数推移
- 資料 9 : 第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書 (抜粋)

資料1：保健医療学部看護学科志願者数と入学者数推移（2013年度～2018年度）

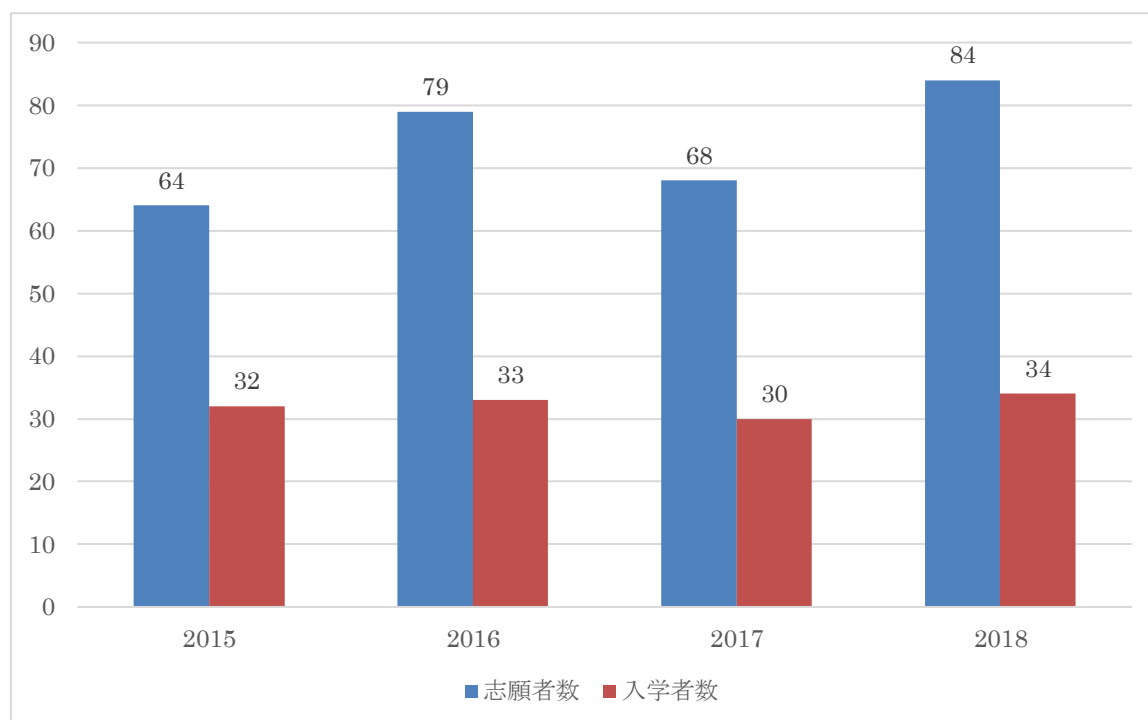
年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	356	391	262	260	287	326
合格者数	130	135	149	142	137	156
入学者数	104	94	91	92	89	119
入学定員 超過率	1.30	1.18	1.14	1.15	1.11	1.48



※小数点第二位以下を四捨五入

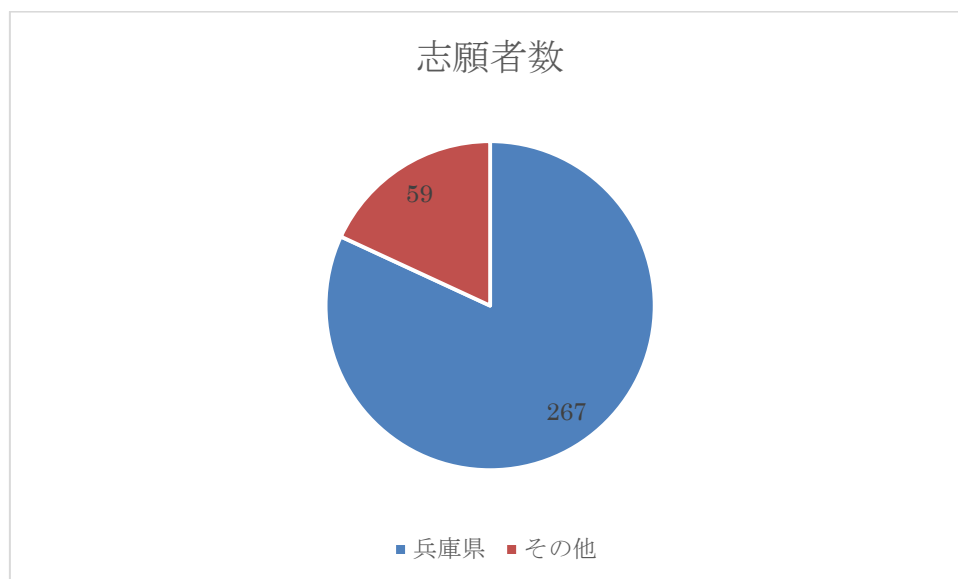
資料 2 : 兵庫県北播磨地域高校からの志願者数及び入学者推移 (2015～2018 年度)

年度	2015	2016	2017
志願者数	64	79	68
入学者数	32	33	30



資料3：保健医療学部看護学科の高校所在都道府県別志願者数（2018年度入試）

都道府県	人数	割合
兵庫県	234	80.7%
その他	56	19.3%
計	290	-



資料4：兵庫県内国公私立大学における看護系学部等設置状況（2018年4月現在）

	区分	学校名	学部	学科	所在地	開設年度
1	公立	兵庫県立大学	看護	看護	明石市	1993
2	国立	神戸大学	医	保健 (看護学専攻)	神戸市	1995
3	公立	神戸市看護大学	看護	看護	神戸市	1996
4	私立	園田学園女子大学	人間健康	人間看護	尼崎市	2006
5	私立	関西福祉大学	看護	看護	赤穂市	2006
6	私立	兵庫大学	健康科	看護	加古川市	2006
7	私立	関西看護医療大学	看護	看護	淡路市	2006
8	私立	甲南女子大学	看護リハビリ	看護	神戸市	2007
9	私立	兵庫医療大学	看護	看護	神戸市	2007
10	私立	姫路大学	看護	看護	姫路市	2007
11	私立	神戸常盤大学	看護	看護	神戸市	2008
12	私立	関西国際大学	保健医療	看護	三木市	2013
13	私立	武庫川女子大学	看護	看護	西宮市	2015
14	私立	神戸女子大学	看護	看護	神戸市	2015
15	私立	姫路獨協大学	看護	看護	姫路市	2016

資料 5 : 2018 年度入試における兵庫県内私立大学看護系学部入学者の状況

区分	学校名	学部	学科	入学定員	入学者数	入学定員 超過率
私立	園田学園女子大学	人間健康	人間看護	80	90	1.12
私立	関西福祉大学	看護	看護	85	107	1.25
私立	兵庫大学	健康科	看護	90	103	1.14
私立	関西看護医療大学	看護	看護	90	105	1.16
私立	甲南女子大学	看護リハビリ	看護	100	107	1.07
私立	兵庫医療大学	看護	看護	80	104	1.30
私立	姫路大学	看護	看護	100	102	1.02
私立	神戸常盤大学	看護	看護	75	91	1.21
私立	関西国際大学	保健医療	看護	80	119	1.48
私立	武庫川女子大学	看護	看護	80	90	1.12
私立	神戸女子大学	看護	看護	80	88	1.1
私立	姫路獨協大学	看護	看護	80	76	0.95

資料6：兵庫県内看護系学部等学費一覧

区分	学校名	学部	学科	初年度納入金(円)
私立	兵庫大学	看護	看護	1,969,370
私立	姫路獨協大学	看護	看護	1,953,300
私立	園田学園女子大学	人間健康	人間看護	1,950,000
私立	神戸常盤大学	保健科学	看護	1,943,000
私立	兵庫医療大学	看護	看護	1,925,000
私立	武庫川女子大学	看護	看護	1,914,700
私立	神戸女子大学	看護	看護	1,905,000
私立	関西看護医療大学	看護	看護	1,900,000
私立	甲南女子大学	看護リハビリ	看護	1,895,700
私立	姫路大学	看護	看護	1,895,000
私立	関西福祉大学	看護	看護	1,858,750
私立	関西国際大学	保健医療	看護	1,800,000

※旺文社 大学の真の実力情報公開 2019年度版 より

資料 7 : 北播磨総合医療センター奨学金概要と貸与者推移

北播磨総合医療センター奨学金概要

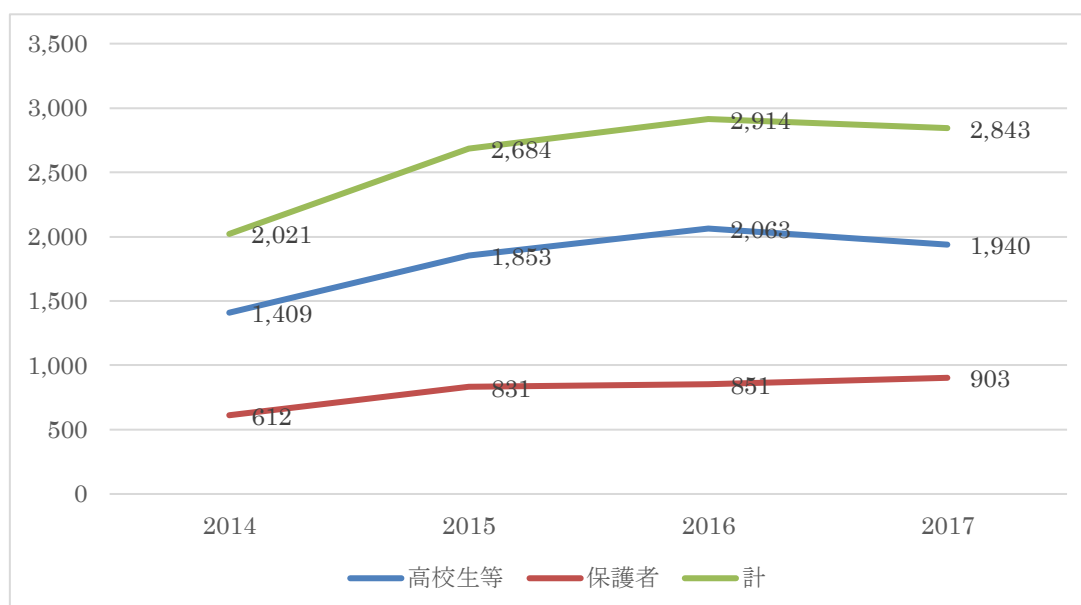
奨学金の目的	北播磨総合医療センターに看護師として就業し、地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、かつ成績優秀な学生に対する経済的支援を目的とした、北播磨総合医療センターからの支援をもとに運営する奨学金制度。
貸与対象	卒業後すぐに北播磨総合医療センターに看護師として就業する強い意志がある成績優秀者
貸与金額及び人数	第Ⅰ種 150万円／年 各学年 2名 第Ⅱ種 60万円／年 各学年 11名

北播磨総合医療センター奨学金貸与者推移

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
Ⅰ種	2	2	2	2	2	2
Ⅱ種	11	9	8	12	11	11
計	13	11	10	14	13	13

資料 8 : オープンキャンパス参加者数推移

年度	オープンキャンパス参加者数推移		
	高校生等	保護者	計
2014	1,409	612	2,021
2015	1,853	831	2,684
2016	2,063	851	2,914
2017	1,940	903	2,843



めた需要数については、病院等の各施設の看護担当責任者（看護部長等）が各施設（所）長の了承を得て、各施設における看護の質の向上や勤務環境の改善などの要因に関し実現可能と判断して記載した人数を基に積算されたものである。したがって、医療現場等の実態を最も熟知している関係者によって作成された資料が基礎となっている。

また、平成27年までの看護職員の需要数については、策定方針に基づき各都道府県がとりまとめた人員数に代わる合理的な根拠ある数値も得られていない状況である。

3. 長期的な看護職員需給見通しの推計

少子化による養成数の減少などを踏まえた長期的な需給見通しの推計について検討するため、本検討会においては、厚生労働科学研究費補助金による関連する研究課題（研究代表者：伏見清秀「地域の実状に応じた看護提供体制に関する研究」）の研究結果について聴取をした。

平成20年11月に取りまとめられた社会保障国民会議の最終報告においては、「医療・介護費用シミュレーション」として医療提供体制に関する複数のシナリオを前提とした2025（平成37）年段階における推計結果が提示されたところである。

本検討会においては、社会保障国民会議による「医療・介護費用シミュレーション」によって示されたシナリオを基に、看護職員の人員配置条件を修正して推計した需要の見通しと、一定の前提を置いて推計した供給の見通しが、上記厚生労働科学研究の研究代表者から報告された。

研究結果としては、現在のサービス提供体制を前提として、単純に基本需要を推計するというシナリオの場合には、看護職員の年間労働時間について1,800時間とすると、2025（平成37）年における看護職員の需要数については、実人員ベースで約191万8千人から約199万7千人と推計された。また、一般病床を急性期と亜急性期・回復期等に機能分化し、医療資源を一層集中投入するというシナリオの場合には、看護職員の年間労働時間について1,800時間とすると、2025（平成37）年における看護職員の需要数については、実人員ベースで約183万9千人から約191万9千人と推計とされた。

他方、供給数については、2025（平成37）年において実人員ベースで約179万8千人という推計であった。

このように、厚生労働科学研究において推計が行われた、いずれのシナリオにおいても

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
1	学長	ハマナ アツシ 濱名 篤 <平成17年4月>		博士 (社会学)		関西国際大学 学長 (平17.4~令和3.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類(7月)

(目次) 全学共通

1. 教員以外の職員の概要に係る記載に不備が見受けられることから、記載内容について補正すること。(是正意見)..... 1

(是正意見) 全学共通

1. 教員以外の職員の概要に係る記載に不備が見受けられることから、記載内容について補正すること。

(対応)

教員以外の職員の概要に係る記載において、図書館専門職員を配置していない記載としていたが、実際には2名の専任図書館専門職員を配置しており、実態に即した記載内容に補正した。

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
事務職員 専任 <u>75</u> 人 兼任 41人 計 <u>116</u> 人	事務職員 専任 <u>77</u> 人 兼任 41人 計 <u>118</u> 人
図書館専門職員 専任 <u>2</u> 人 兼任 0人 計 <u>2</u> 人	図書館専門職員 専任 <u>0</u> 人 兼任 0人 計 <u>0</u> 人